ONKYO®

INTEC
COMPONENT WORLD

5.1chホームシアターシステム

BASE-V10X

PR-155X（AVコントローラー）
SWA-V10X（サブウーファー）
ST-V10X（サテライトスピーカー）

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

BASE-V10X(01-21)(SN29343589A) 1 04.7.21, 1:02 PM

目次

使ってみよう

はじめに

ホームシアターとは

接続をする

使ってみよう

ホームシアターの機能

こんなこともできます

こんなこともできます

こんなこともできます

いろいろな機能

ラジオを聞く

時刻を合わせる

タイマー機能を使う

録音する

その他

主な特長

- ■ ドルビー*[1]プロロジックII、ドルビーデジタル、DTS*[2]、AAC*[3]デコーダー内蔵
- ■ DVDはもちろん、ビデオやテレビ、ゲームも5.1chサラウンド再生
- ■ OMFダイヤフラム※[1]採用サテライトスピーカー、「AERO(エアロ) ACOUSTIC(アコースティック) DRIVE(ドライブ)」※[2]採用で重心が低く、スピード感あふれる超低音を出力するサブウーファー
- ■ 6チャンネルアンプ、サブウーファーが一体化。コンパクトで簡単接続、リモコン付属で簡単操作
- ■ デジタル入力端子として光3系統を装備
- ■ 3系統アナログ入力端子装備
- ■ 5.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-オーディオプレーヤーへの拡張性を実現
- ■ プリセット30局メモリー機能
- ■ オートプリセットメモリー機能（FM）
- ■ 再生も録音も複数設定可能なプログラムタイマー機能（最大4モード）
- ■ オンキヨー独自の5つのリスニングモード
- ■ サンプリング周波数96kHz入力に対応
- ■ TVプリプロ付きシステムリモコン付属
- ■ 簡単に接続できる色付接続コード付属

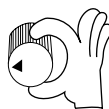
*1　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*2　本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
"DTS"、"DTS Digital Surround"は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*3　AAC　パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5, 579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5, 592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240
5,197,087 5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

※1　**独自開発OMFダイヤフラム採用のスピーカーユニット**
スピーカーユニットにはOMF(Onkyo(オンキヨー) Micro(マイクロ) Fiber(ファイバー))ダイヤフラムを採用。独自の素材と成形方法によって、振動板に要求される条件(①軽量②高剛性③適度な内部ロス)を最適にバランスさせ、雑音の低減、トランジェント(過度特性)を向上させています。また、サブウーファー、サテライトスピーカーには、音質の良い木製キャビネットを採用しています。

※2　AERO ACOUSTIC DRIVEとは、「空気をいかに駆動するか」という発想で、重心が低くよりハイスピードな低音を実現させるオンキヨー独自の技術の総称です。
SWA-V10Xでは、ダクト形状を細長いスリット形状にすることにより、空気に十分な負荷をかけ、重心が低くスピード感あふれる超低音を再生します。また、この技術によりダクトからの風切り音などの音質に悪影響を及ぼす不要なノイズを極限まで低減させ、低域再生範囲の拡大もあわせて実現させています。

音のエチケット
楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。特に静かな夜間には窓を閉めるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。

● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● 本機の通風孔をふさがないでください。 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気を付けてご使用ください。

- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、布団の上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔から金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますので、ご注意ください。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより火災・けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るようなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードは安全な場所へ

- スピーカーコードの配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。スピーカースタンドを利用した場合や高い所に置いた場合、壁に掛けた場合など、特にご注意ください。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

BASE-V10X(01-21)(SN29343589A) 8 04.7.21, 1:02 PM

⚠注意

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードをはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■電池について

- リモコンに電池を入れる場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■スピーカーコードについて

- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
- アンテナ工事には経験と技術が必要ですので、販売店にご相談ください。
- 屋外アンテナは送電線から離れた場所に設置してください。
  アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

お手入れについて

■ お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
スピーカーのサランネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るか ブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■ カラーテレビやパソコンとの近接使用について

一般にカラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなものですので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は（社）電子情報技術産業協会（JEITA)の技術基準に適合した防磁設計を施していますので、テレビなどとの近接使用が可能です。ただし、設置のしかたによっては色むらが生じる場合があります。その場合は一度テレビの電源を切り、15分〜30分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。その後も色むらが残る場合はスピーカーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本機との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合がありますので設置にご注意ください。

ご注意

テレビなどの近くに置く場合、テレビから出ている電磁波の影響で本機の電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。この雑音が気になる場合は、テレビからさらにスピーカーを離してご使用ください。

■ 取り扱い上のご注意

本機は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

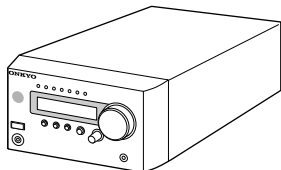
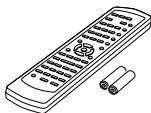
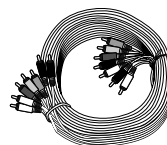
① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発信器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど､接続端子の抜き差し時のショック音

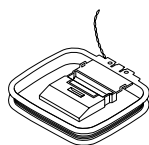
■ メモリー保持について

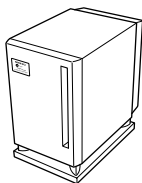
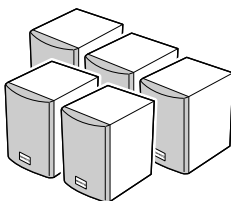
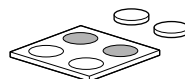
PR-155Xには、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が設定した内容などを停電時などに保護するためのものです。PR-155Xの電源コードを抜いた状態で、メモリーを保持できるのは約2週間です。ただし、時刻は保護されずタイマーはOFF設定になりますので、再度設定してください。

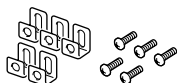
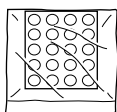
付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。(　)内の数字は数量を表しています。

• AVコントローラー
(PR-155X)(1)

• リモコン(RC-568S)(1)
• 乾電池(単3形)(2)

• SWA-V10X
専用接続コード3m(1)

• FM室内アンテナ(1)

• AM室内アンテナ(1)

• 取扱説明書(本書1)
• 保証書(1)
• オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内(1)

• サブウーファー
(SWA-V10X)(1)

• サテライトスピーカー
(ST-V10X)(5)

• サブウーファー用
コルクスペーサー(一組〈4個〉)

• サテライトスピーカー用
コルクスペーサー(一組〈20個〉)

• スピーカー金具(5)
• 壁掛けネジ(5)

• スピーカーコード(左右フロント/センター用) 3.5m(3)

（赤）　（白）　（緑）

• スピーカーコード(サラウンド用) 8m(2)

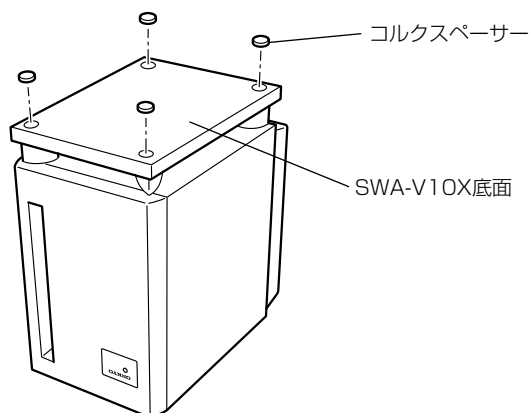
（青）　（灰）

ご注意

BASE-V10Xは、サブウーファー（SWA-V10X)、サテライトスピーカー（ST-V10X）およびAVコントローラー（PR-155X）の組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

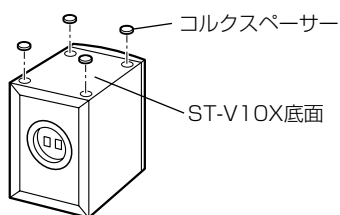
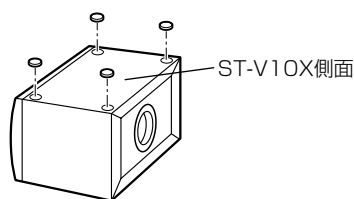
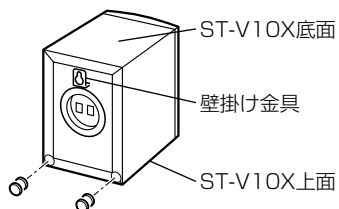
■ 付属のコルクスペーサーを使う

サブウーファー（SWA-V10X）用コルクスペーサー

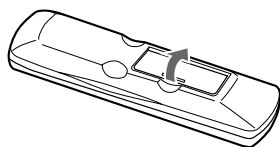
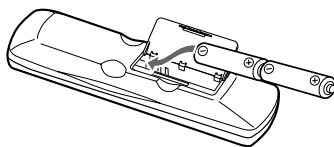
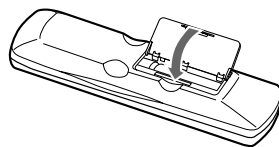
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

サテライトスピーカー（ST-V10X）用コルクスペーサー

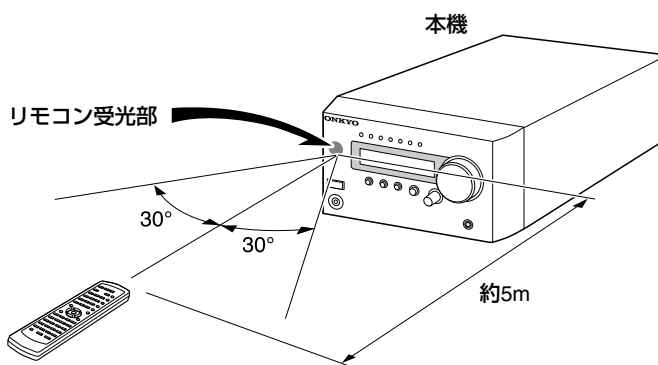
よりよい音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。
また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。

- サテライトスピーカーを壁にかけて使用する場合は、付属の壁掛け金具の説明書をよく読んで使用してください。

たて置きの場合

横置きの場合

壁に掛けて使用する場合

サテライトスピーカーの上下を逆にして使用します。
スペーサーは2枚重ねて2ヶ所に貼ってください。
また、バッジは回転しますので横向きや上下逆にすることができます。

付属品を確認する

■ リモコンの乾電池の入れかたと交換のしかた

①　②　③

リモコン操作の反応が悪くなったら、2本とも新しい乾電池(単3形)と交換してください。
- 電池の極性(⊕、⊖)は、表示通り正しく入れてください。
- 種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用は避けてください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液もれを防ぐため、電池を取り出しておいてください。

■ リモコンの使いかた

リモコンをAVコントローラー（PR-155X）のリモコン受光部に向けて操作してください。
- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を発射する機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると、操作できません。
- リモコンの上に本などの物を置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。

各部の名称と主な働き

■ AVコントローラー（PR-155X）前面パネル

入力信号インジケーター（オレンジ）
入力信号の状態を点灯して示します。

サラウンドインジケーター（緑）
サラウンドモードの状態を点灯して示します。

電源ボタン（STANDBY/ON）
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

MULTI CHインジケーター（赤）
入力がマルチチャンネル時点灯します。

リモコン受光部

表示部（下記参照）

音量調整ツマミ（MASTER VOLUME）
音量を調整します。

ONKYO AV CONTROLLER
AAC PCM DIGITAL DTS PLII DSP STEREO(GRN) MULTI IN(RED)
MASTER VOLUME
STANDBY
STANDBY/ON
PHONES
SW LVL CTRL MEMORY TIMER INPUT MULTI JOG
CLEAR
PUSH TO ENTER
SURROUND
PR-155X

サブウーファーレベルコントロールボタン（SW LVL CTRL）
サブウーファーのレベルを切り換えます。

マルチジョグダイヤル（⏮ MULTI JOG ⏭）
各種設定の選択、決定時に使用します。

メモリーボタン（MEMORY）
FM/AM表示のときに長く押すとメニューモードになります。

入力切換ボタン（INPUT）
聞くソースを選びます。

タイマーボタン（TIMER）
タイマーモードを切り換えます。

サラウンドモード切換ボタン（SURROUND）
サラウンドモードを切り換えます。

ヘッドホン端子（PHONES）

■ 表示部

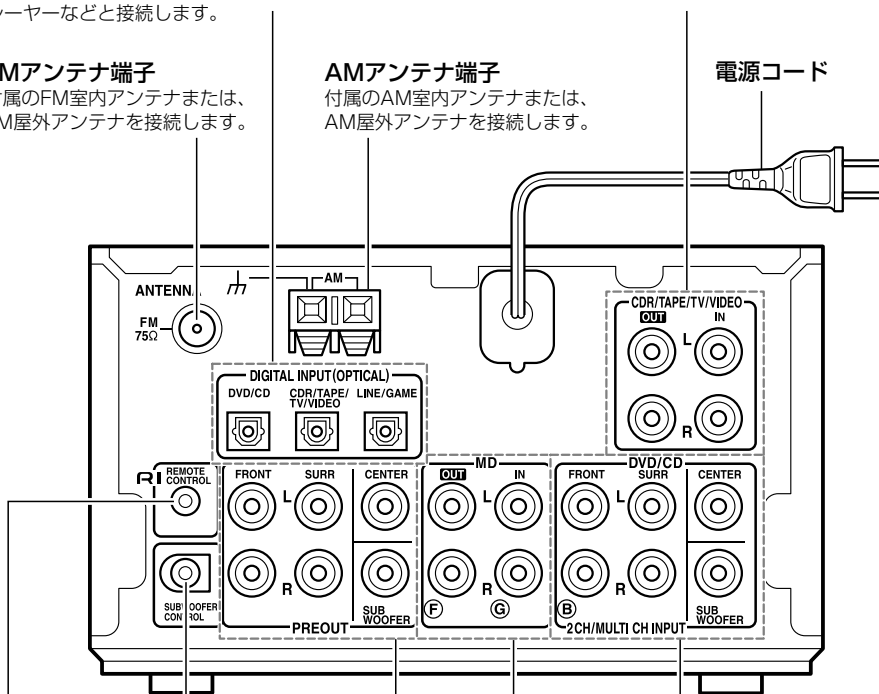
■ AVコントローラー（PR-155X）後面パネル

デジタル入力端子(DIGITAL INPUT)
市販のオーディオ用光デジタルケーブルを使って デジタル出力端子付きのDVDプレーヤー、CDプレーヤーなどと接続します。

CDR/TAPE/TV/VIDEO入出力端子
CDレコーダー、テープデッキ、テレビ、ビデオなどの音声入出力端子と接続します。

FMアンテナ端子
付属のFM室内アンテナまたは、FM屋外アンテナを接続します。

AMアンテナ端子
付属のAM室内アンテナまたは、AM屋外アンテナを接続します。

電源コード

サブウーファーコントロール端子(SUBWOOFER CONTROL)
SWA-V10X(サブウーファー)の サブウーファーコントロール端子と 付属のSWA-V10X専用接続コードを 使って接続します。

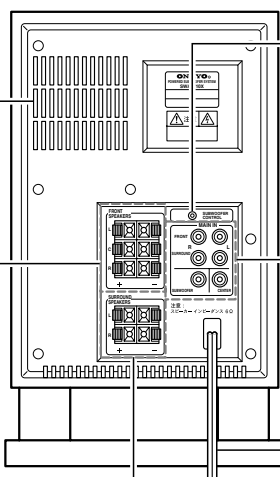
MD入出力端子
MDレコーダーの音声 入出力端子と接続します。

RI端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させるための端子です。RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

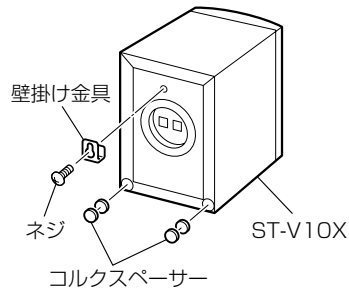
プリアウト端子(PREOUT)
付属のSWA-V10X専用接続コードを使って、SWA-V10X(サブウーファー)のMAIN IN端子と接続します。

DVD/CD入力端子
DVDプレーヤー、CDプレーヤーなどの音声出力端子と接続します。マルチチャンネル出力のあるDVDプレーヤーとも接続できます。

■ サブウーファー（SWA-V10X）前面パネル

■ サブウーファー（SWA-V10X）後面パネル

■ 壁掛け用金具の使いかた

金具の取り付かた

サテライトスピーカーの上下を逆にして使用します。付属のネジを使ってキャビネット背面に金具を取り付けます。付属のサテライトスピーカー用コルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて2ヶ所に貼り付けることにより、安定して設置できます。また、バッジは回転しますので、上下逆にするこができます。

ご注意

壁につける場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟（さん）などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取付けに際しては十分注意してください。
壁につけるネジは、頭の直径が4mm以上10mm以下、ネジの直径が4mm以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。（業者の方にご相談いただくのが安心です。）

■ リモコン（RC-568S）　詳しい説明は〔　〕内のページをご覧ください。

入力切換ボタン(INPUT)〔37〕
聞くソースを選びます。

電源ボタン（STANDBY/ON)〔34〕
電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

10キー(10KEY)〔48〕
数字ボタンを使う前に押します。

数字ボタン〔48, 66〕
10キーを押すと約10秒間、数字ボタンとして働きます。
プリセット選局などに使います。

エンターボタン(ENTER)〔66〕
各種設定を決定するときに押します。

▲/▼ボタン〔64, 65〕
スピーカー設定のときに、スピーカーの距離やレベルを調節します。

モードボタン(MODE)〔36, 45〕
FM受信時に、FMモードのオート/モノの切り換えを行います。
また、マルチチャンネル信号入力時、オート/マルチチャンネル入力を切り換えます。

テストトーンボタン（TEST TONE)〔65〕
各スピーカーからテストトーンが出力されます。

チューニングボタン(TUNING ◀◀ / ▶▶)〔44〕
放送局を選局するときに使用します。
（オートチューニング）

ミューティングボタン(MUTING)〔37〕
音を一時的に小さくします。

音量ボタン（VOLUME ▲/▼)〔37〕
音量を調節します。

チューナープリセットボタン〔48〕(TUNER PRESET |◀◀ / ▶▶|)
プリセット選局するときに使用します。

スリープボタン(SLEEP)〔52〕
スリープタイマーを設定します。

クロックボタン(CLOCK)〔51〕
現在の時刻を表示します。

ディマーボタン(DIMMER)〔43〕
表示部の明るさを切り換えます。

サラウンドボタン（SURROUND)〔39〕
サラウンドモードを切り換えます。

レイトナイトボタン（LATE NIGHT)〔42〕
小音量で楽しみたい時に、ダイナミックレンジを切り換えます。

サブウーファーレベルコントロールボタン(SW LVL CTRL)〔43〕
サブウーファーのレベルを切り換えます。

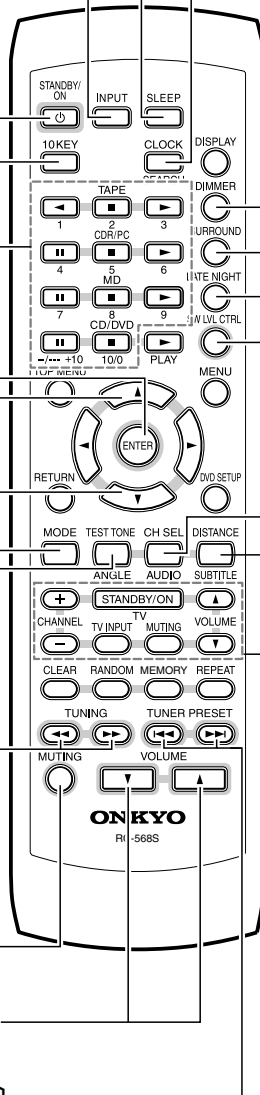
チャンネルセレクトボタン（CH SEL)〔42, 64, 65〕
距離またはレベルを決定するスピーカーを選びます。

ディスタンスボタン（DISTANCE)〔64〕
聞く位置から、スピーカーまでの距離を調整するときに使用します。

テレビ操作ボタン

CHANNEL +/–	：チャンネルを切り換えます。
STANDBY/ON	：テレビの電源をオン/オフします。
VOLUME ▲/▼	：テレビの音量を調節します。
MUTING	：テレビの音を一時的に小さくします。
TV INPUT	：テレビの入力を切り換えます。

このテレビ操作ボタンを使用するには、あらかじめ、ご使用になっているテレビのリモコンコードを登録する必要があります。
登録方法は66ページをご覧ください。

STANDBY/ON　INPUT　SLEEP　10KEY　CLOCK　DISPLAY　TAPE　DIMMER　1　2　3　CDR/PC　SURROUND　4　5　6　MD　LATE NIGHT　7　8　9　CD/DVD　SW LVL CTRL　--/---　+10　10/0　PLAY　TOP MENU　MENU　ENTER　RETURN　DVD SETUP　MODE　TEST TONE　CH SEL　DISTANCE　ANGLE　AUDIO　SUBTITLE　STANDBY/ON　CHANNEL　TV　TV INPUT　MUTING　VOLUME　CLEAR　RANDOM　MEMORY　REPEAT　TUNING　TUNER PRESET　MUTING　VOLUME　ONKYO　RC-568S

各部の名称と主な働き

■ リモコン（RC-568S）

INTEC155シリーズ（DV-S155X、C-701A、MD-101A、CDR-201A、K-501Aなど）とRI接続をすると下記のボタンが使用できます。

テープデッキ操作ボタン
◀ ：B(裏)面を再生します。
■ ：再生・録音や早送り・巻戻しを止めます。
▶ ：A(表)面を再生します。

CDR/PC操作ボタン
II ：再生の一時停止をします。
■ ：再生を止めます。
▶ ：再生を始めます。

MDレコーダー操作ボタン
II ：再生・録音を一時停止します。
■ ：再生・録音を止めます。
▶ ：再生・録音(録音一時停止から)を始めます。

CD/DVDプレーヤー操作ボタン
II ：再生の一時停止をします。
■ ：再生を止めます。
▶ ：再生を始めます。

クリアボタン(CLEAR)
記憶した曲などを取り消します。

◀◀/▶▶ボタン
DVD/CD/MD/CDRの早送り、早戻しをします。

ランダムボタン(RANDOM)
ランダム再生を始めるときに押します。

数字ボタン
10KEYを押した後、約10秒間数字ボタンとして働きます。CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーの選曲に使います。

ディスプレイボタン(DISPLAY)
再生している機器の表示を切り換えます。（テープデッキは除く）

DVDプレーヤー操作ボタン
TOPMENU ：DVDソフトの最上層のメニュー画面を表示します。
MENU ：DVDのメニュー画面を表示します。
RETURN ：初期設定画面やメニュー画面が表示されているときに押すと、1つ前の項目に戻ります。
DVDSETUP ：セットアップを始めるときに押します。
ENTER ：決定項目を選択するときに押します。
▲/▼/▶/◀：決定項目を選択するとき、カーソルを上下左右に動かします。

リピートボタン(REPEAT)
くり返し再生をするときに使用します。

I◀◀/▶▶Iボタン
DVD/CD/MD/CDRの曲の頭出しをします。

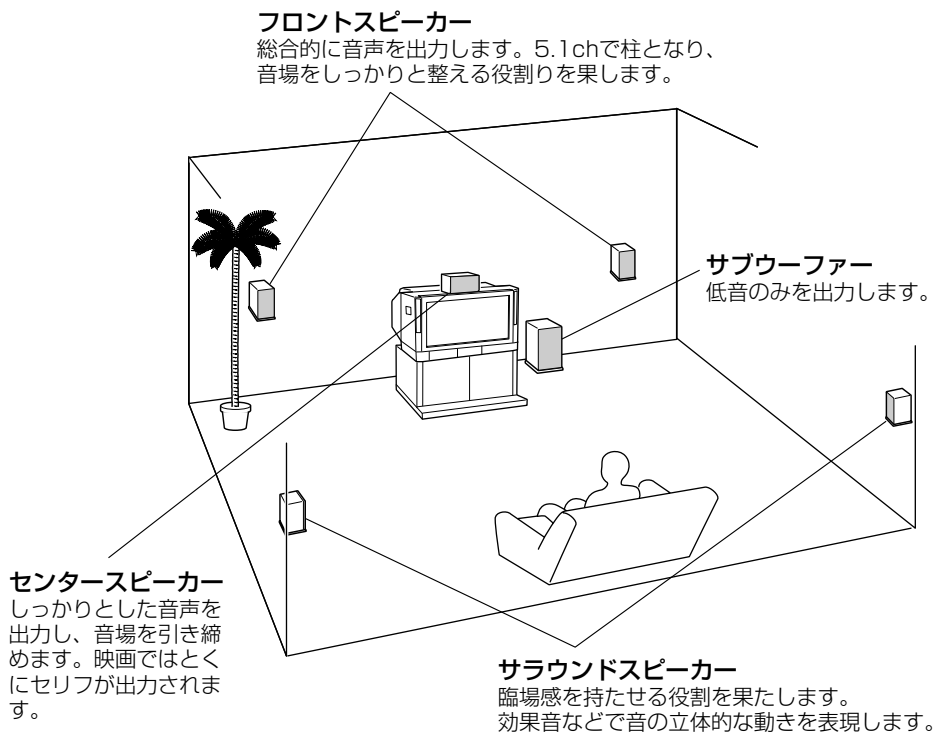
メモリーボタン(MEMORY)
プログラム、メモリーを始めるときに使用します。

- **各機能については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。**

青いボタン（1〜9、--/---＋10、10/0、ANGLE、AUDIO、SUBTITLE、SEARCH）は、10KEYを押した後約10秒間はボタンの下の文字の機能が働きます。

ホームシアターとは

■ ホームシアターで楽しもう

BASE-V10Xは音の立体感、移動感を表現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。(5.1chサラウンド再生)
サテライトスピーカーはすべて同じ性能です。2本をフロントスピーカー(L、R)、1本をセンタースピーカー、2本をサラウンドスピーカー(L、R)として使用します。
DVDはディスクの記録の方法により、DTSやドルビーデジタル再生で、テレビやMDの再生もオンキヨー独自のDSPサラウンドをお楽しみいただけます。(☞38ページ)

接続のしかた

① AVコントローラー(PR-155X)とサブウーファー(SWA-V10X)の接続(☞22ページ)
② サブウーファー(SWA-V10X)とサテライトスピーカー(ST-V10X)の接続(☞23ページ)
③ お持ちのDVDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダー等を5.1chで再生するにはAVコントローラー(PR-155X)との接続が必要です。(☞25～28ページ)

設置のしかた

スピーカーの設置例をご覧ください。(☞24ページ)

設定のしかた

最適なサラウンド再生をお楽しみいただくにはスピーカーの設定を行ってください。(☞64ページ)

接続をする

① AVコントローラー（PR-155X）とサブウーファー（SWA-V10X）を接続する

付属のSWA-V10X専用接続コードを使って、下図のように各端子を接続します。
電源プラグは、まだ接続をしないでください。

⊏⊳：信号の流れ

SWA-V10X

PR-155X

(黒) SUBWOOFER CONTROL
(赤) FRONT R
(白) FRONT L
(青) SURR L
(緑) CENTER
(灰) SURR R
(紫) SUBWOOFER

SWA-V10X MAIN IN端子へ

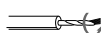
PR-155X PRE OUT端子へ

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
  接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- SWA-V10X専用接続コードはスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質が悪くなることがあります。

■ スピーカーを接続する前に

付属のスピーカーコードの準備をします。

①スピーカーコードのビニールカバーの先を外します。

②しん線をよじります。

■ 左右フロント、センター、サラウンドスピーカーの接続

サテライトスピーカー（ST-V10X）はすべて同じ性能です。1つをセンタースピーカーとして、2つを左右フロントスピーカー、2つを左右サラウンドスピーカーとして使用します。

SWA-V10X

FRONT SPEAKERS L C R + −

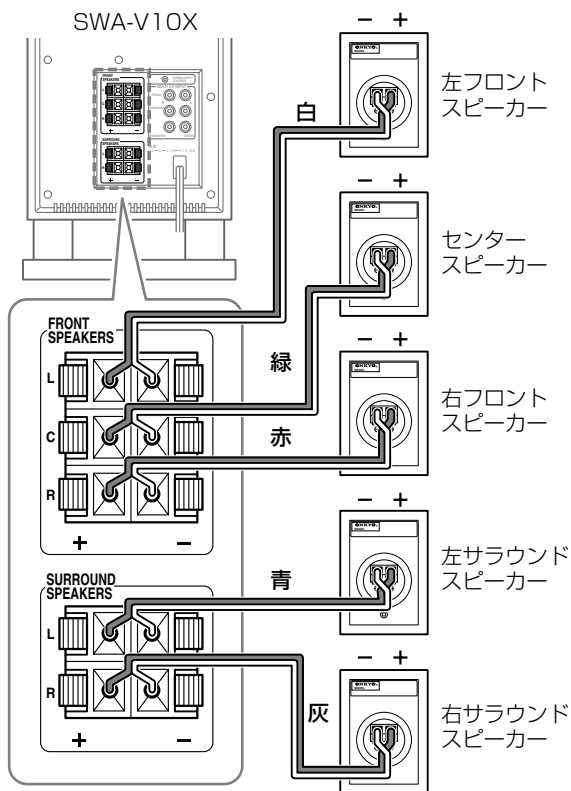
SURROUND SPEAKERS L R + −

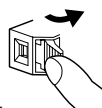
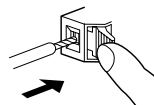
白 左フロントスピーカー

緑 センタースピーカー

赤 右フロントスピーカー

青 左サラウンドスピーカー

灰 右サラウンドスピーカー

スピーカー端子への接続方法

①レバーを押します。

②しん線を穴の中に入れます。

③レバーをはなします。

危険

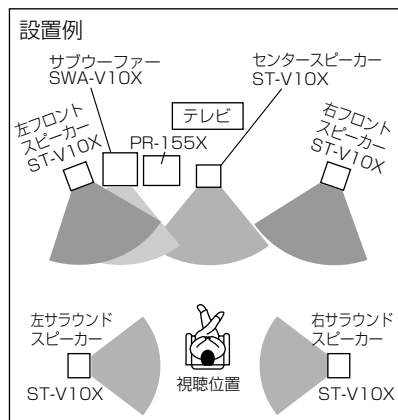
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスあるいはL/Rを絶対に接触させないでください。

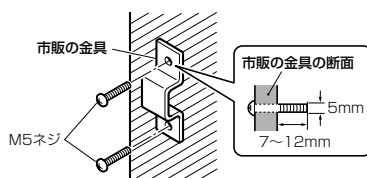
NO

- スピーカーのプラス(＋)とサブウーファーのプラス(＋)、スピーカーのマイナス(−)とサブウーファーのマイナス(−)をそれぞれの色のついたスピーカーコードで接続します。
- 付属のスピーカーコードの色が入っている方をプラス(＋)側に接続してください。
- プラス(＋)とマイナス(−)を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると、音声が不自然になりますのでご注意ください。

■ スピーカーの設置例

スピーカーの設置方法は、部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは基本的な配置例と各スピーカーの役割を紹介します。

下図の例の通りでなくても「スピーカーの距離を設定する」(☞64ページ)ことで、それぞれのスピーカーから音が届く時間を一定にし、最適なサラウンド再生をお楽しみいただくことができます。
また、各スピーカーの音量レベルをお好みに調節することもできます。(☞65ページ)
(すべての接続が完了してから行ってください。)

市販のスタンドや金具を使用する場合

スピーカーの背面にはM5用ネジ穴1個、底面にはピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。底面を固定する場合は、市販のスタンドや金具を使用してください。
スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドの厚みを考慮して有効ネジ長が7～12mmのものをご使用ください。

壁に掛けて使用する場合

付属の壁掛け金具をご使用ください。(☞18ページ)

センタースピーカー (ST-V10X)

できるだけ画面の近くに配置します。視聴者の耳に向くように配置してください。
センタースピーカーは、左右フロントスピーカーの音源効果や、音の動きを明確にして、より豊かなサウンドイメージを作ります。映画では特にここからセリフが聞こえます。

左右フロントスピーカー (ST-V10X)

視聴者の前方に配置します。
- センタースピーカーとなるべく同じ高さになるように配置してください。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

サラウンドスピーカー (ST-V10X)

視聴者の横または後に配置します。
音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作り出して臨場感を高めます。

サブウーファー (SWA-V10X)

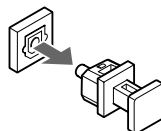
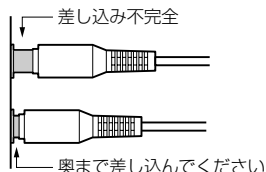
低音のみを出力し、迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。
部屋の1/3付近に配置すると効果的です。

ご注意

サテライトスピーカーを設置する際には、机やラックの端に置かないようにしてください。落ちたり、倒れたりして、ケガの原因となることがあります。

■ 接続の前に

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質低下の原因となります。
- オーディオ用光デジタルケーブルを使用するときは、折り曲げたり、きつく巻いたりしないでください。
- DIGITAL INPUT端子には、保護用キャップが取り付けられています。接続時は、このキャップを取り外してください。使用しない場合、キャップは必ず元通りに取り付けておいてください。

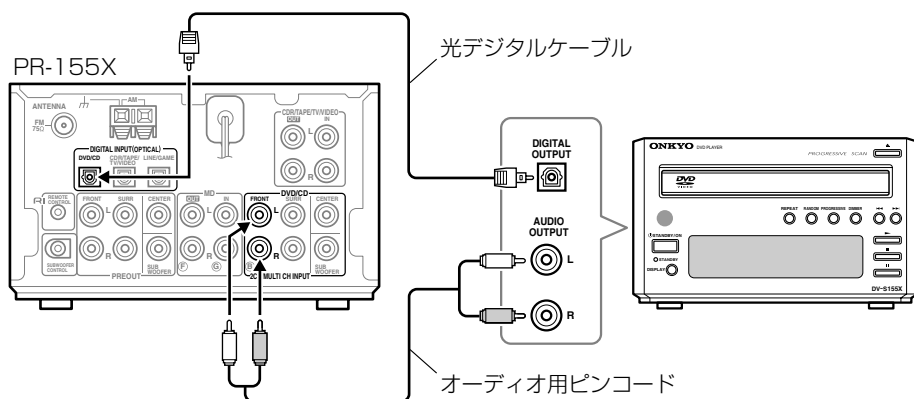
- すべての接続が完了してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。（☞34ページ）

■ DVDプレーヤーまたはCDプレーヤーの接続（DVD/CD端子）

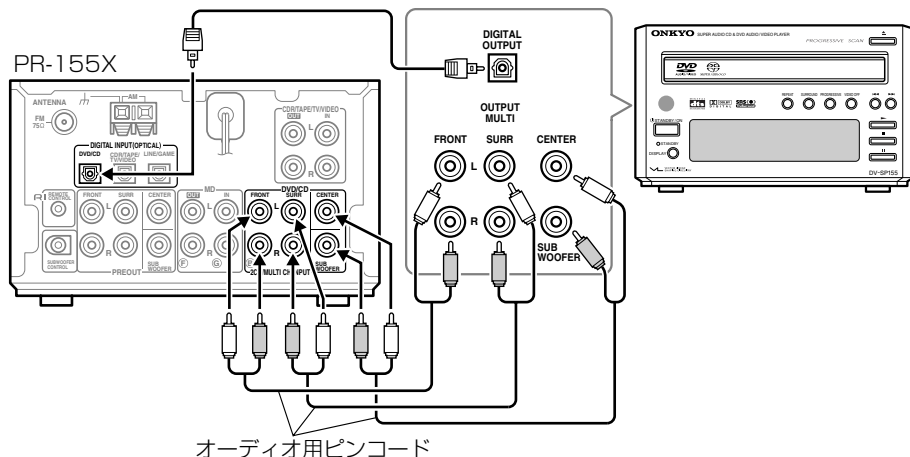
この端子にはDVDプレーヤーまたはCDプレーヤーの音声出力を接続することができます。（下図は別売りのオンキヨー製品との接続例です。）

2チャンネルのDVDプレーヤー（DV-S155Xなど）またはCDプレーヤー（C-701Aなど）と接続する場合

光デジタルケーブルで、PR-155XのDIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）（OPTICAL（オプティカル））DVD/CD端子と2チャンネルDVDプレーヤーやCDプレーヤーの光出力端子を接続します。

オンキヨー製品とRI連動させる、またはDVDの音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードでPR-155XのDVD/CD 2CH（チャンネル） INPUT（インプット）端子Ⓑと、2チャンネルDVDプレーヤーやCDプレーヤーの音声出力端子を接続します。

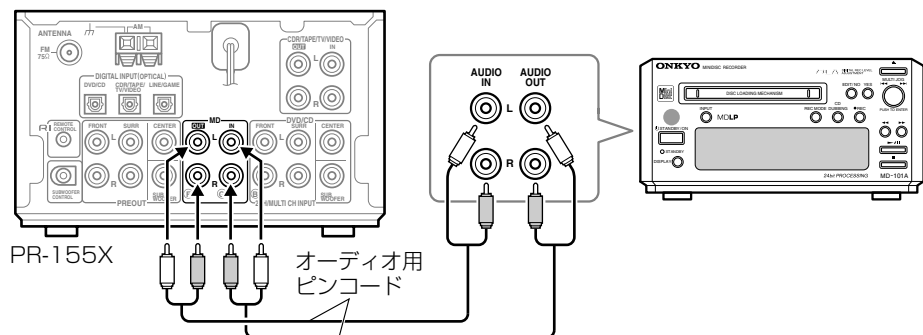
DVDプレーヤーの映像出力は、直接テレビに接続してください。

アナログマルチチャンネル再生に対応したDVDプレーヤー（DV-SP155など）と接続する場合

光デジタルケーブルで、本機のDIGITAL INPUT OPTICAL端子（DVD/CD）とDVDプレーヤーの光デジタル出力端子を接続します。オーディオ用ピンコードまたはアナログマルチチャンネル接続コードでPR-155XのMULTI CH INPUT端子とDVDプレーヤーのマルチ音声出力端子を接続します。（DVDオーディオやスーパーオーディオCDはアナログ音声のみ出力されます。必ずアナログ接続、デジタル接続の両方を行ってください。）マルチチャンネル出力設定を変更する必要があります。（☞36ページ）

■ MDレコーダーの接続（MD端子）

この端子にはMDレコーダーの音声入出力端子を接続することができます。（下図は別売りのオンキヨー製品との接続例です。）

オーディオ用ピンコードでPR-155XのMD IN端子Ⓖと、MDレコーダーの音声出力端子を接続します。

オーディオ用ピンコードでPR-155XのMD OUT端子Ⓕと、MDレコーダーの音声入力端子を接続します。

MDは2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。

■ CDレコーダー、テープデッキ、ビデオデッキの接続（CDR/TAPE/TV/VIDEO端子）

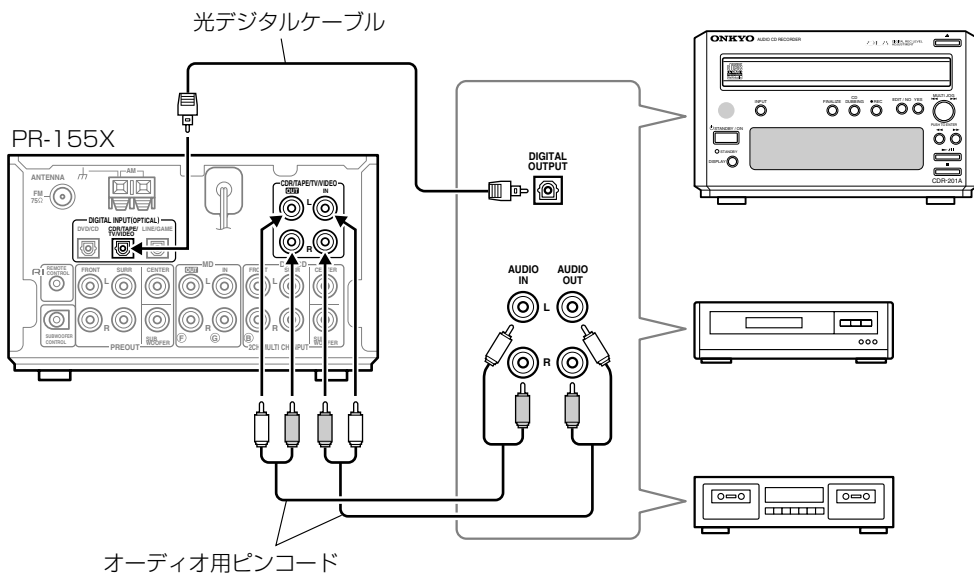
この端子にはCDレコーダー、テープデッキ、テレビ、ビデオデッキなどの音声入出力端子を接続することができます。ビデオデッキなどの映像出力は直接テレビに接続してください。
（下図は別売りのオンキヨー製品との接続例です。）

オーディオ用ピンコードでPR-155XのCDR/TAPE/TV/VIDEO IN端子と接続する機器の音声出力端子を接続します。

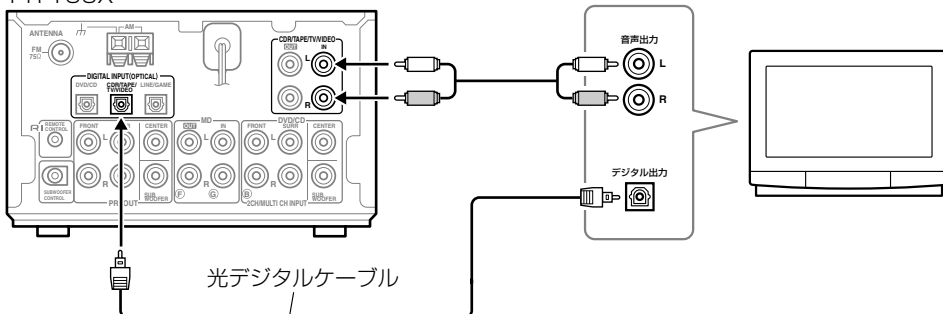
録音機器と接続する場合は、オーディオ用ピンコードでPR-155XのCDR/TAPE/TV/VIDEO OUT端子と接続する機器の音声入力端子を接続します。

接続した機器の再生音をデジタル音声で聞く場合は、光デジタルケーブルでPR-155XのDIGITAL INPUT（OPTICAL）CDR/TAPE/TV/VIDEO端子と接続する機器のデジタル音声出力端子を接続します。

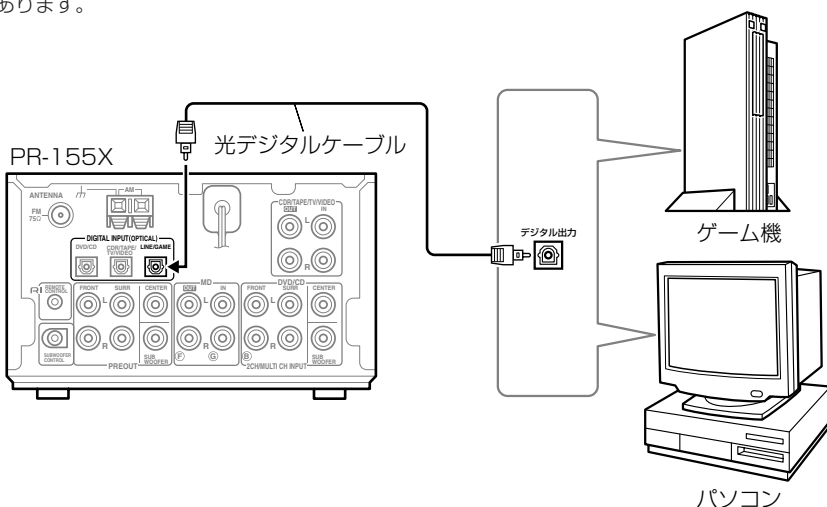
オンキヨー製CDR-201Aを接続する場合は、CDR-201AのDIGITAL OUTPUT 2端子に接続します。

- CD-RやCD、カセットテープは2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックIIなどのサラウンド効果がお楽しみいただけます。
- RI端子付きのオンキヨー製品でシステム接続する場合は、入力表示（INPUT）をそれぞれに切り換えてください。（☞35ページ）

■ テレビの音をサラウンドで聞く接続（CDR/TAPE/TV/VIDEO端子）

光デジタルケーブルでPR-155XのDIGITAL INPUT（OPTICAL）CDR/TAPE/TV/VIDEO端子とテレビのデジタル音声出力端子を接続します。
テレビにデジタル音声出力端子がない場合は、オーディオ用ピンコードでPR-155XのCDR/TAPE/TV/VIDEO端子と、テレビの音声出力端子を接続します。

PR-155X

■ その他のデジタル機器の接続(DIGITAL INPUT(OPTICAL)LINE/GAME端子)

この端子にはデジタル音声出力端子のあるパソコンやゲーム機などを接続することができます。
光デジタルケーブルでPR-155XのDIGITAL INPUT（OPTICAL）LINE/GAME端子と接続します。
パソコンに光デジタル出力端子がない場合は、オーディオプロセッサーなどを使うと、デジタル接続ができます。

接続する機器のデジタル音声出力設定を確認してください。
DVD対応のゲーム機など、機器によってはドルビーデジタル信号やDTS信号の出力設定がOFFになっていることがあります。

■ システム機能について

INTEC155シリーズの組み合わせでRIケーブル、オーディオ用ピンコードを接続すると、次のシステム機能を使うことができます。RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。
INTEC155シリーズのDVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーと接続する場合

システム接続のしかた
（INTEC155 シリーズの接続）

本取扱説明書22〜28ページをご覧ください。

オートパワーオン
本機に接続されている機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を入、切しますと接続されている機器全体の電源が入ったり、切れたりします。

ダイレクトチェンジ
本機に接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作
本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

詳しくは本取扱説明書20ページをご覧ください。

タイマー操作
本機でタイマー時間を設定し、タイマー操作や、タイマー録音ができます。

詳しくは本取扱説明書の52〜59ページをご覧ください。

CDダビング
CDプレーヤーとMDレコーダー、CDレコーダーの組み合わせで便利なCDダビングがワンタッチで行えます。

トラック指定CDダビング
演奏トラックを指定してCDプレーヤーからMDレコーダー、CDレコーダーへの録音がワンタッチで行えます。

CDシンクロ録音※
MDレコーダーまたはCDレコーダーを録音待機状態にしておけばCDプレーヤーのプレイ操作のみで録音が自動的に始まります。

詳しくはMDレコーダー、CDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

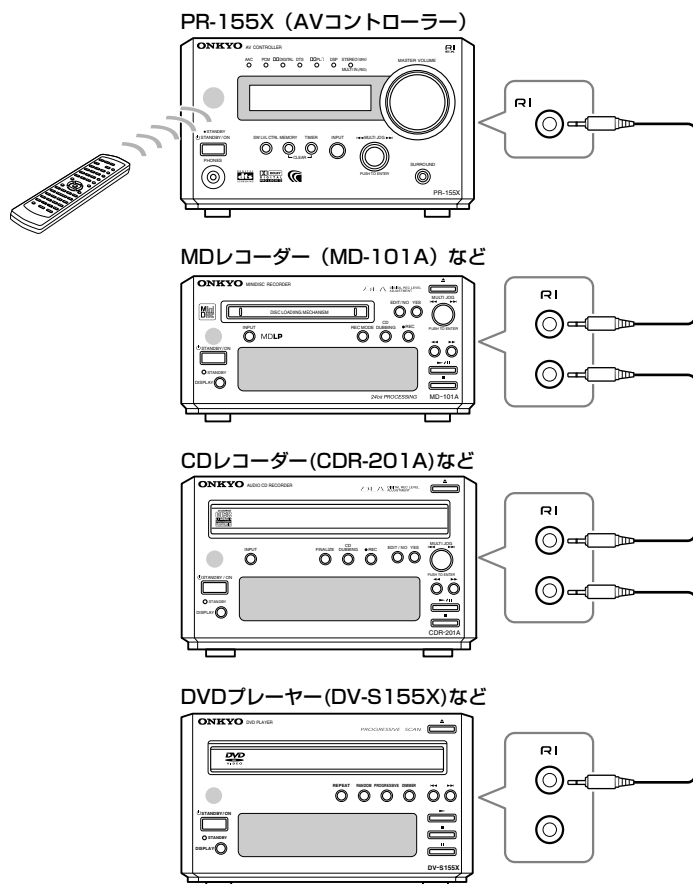
※ DV-S155X（DVDプレーヤー、SYSTEM MODEスイッチが「1」側のとき）は、CDダビング、トラック指定CDダビング、アナログ入力でのCDシンクロ録音ができます。
デジタルでのCDシンクロ録音はできません。
DV-SP155、DV-S155の場合、CDダビング、トラック指定CDダビング、CDシンクロ録音はできません。

- 接続が正しくないと各機能は働きません。22〜28ページを参照しながらオーディオ用ピンコード、RIケーブルを正しく接続してください。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■ RIケーブルの接続

RI端子付きオンキヨー製品でシステムアップした場合、システム機能を使うことができます。（本機にはRIケーブルは付属していません。INTEC155シリーズの各機器に付属しているRIケーブルをご使用ください。）

- 操作は本機に付属のリモコンを使用します。PR-155Xのリモコン受光部にリモコンを向けて操作してください。
- 使用できるシステム機能については、各機器の取扱説明書をご参照ください。

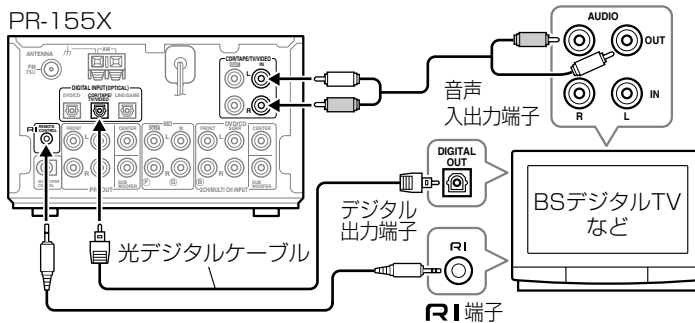
（例）

- RI端子はRI端子付き製品と組み合わせてご使用ください。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにでもつなげます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

■ RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

PR-155XはRI端子を持つテレビと接続すると、次のような動作が可能になります。
テレビの電源を入れるとPR-155Xも自動的に電源が入り、入力が切り換わります。
このとき、テレビの音は消え、PR-155Xに接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビの電源を切る（スタンバイにする）と、PR-155Xもスタンバイ状態になります。ただし、PR-155Xで他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態にはなりません。

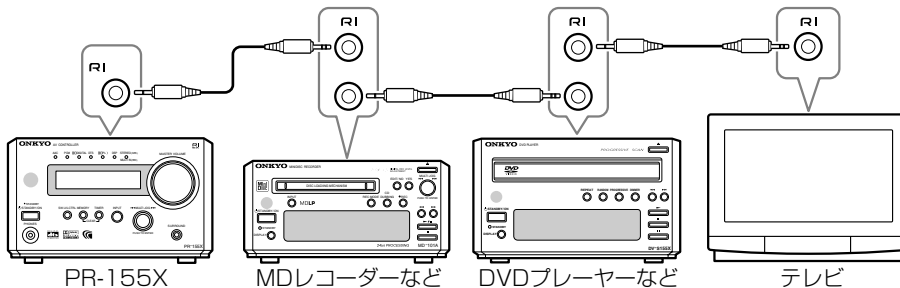
- テレビに付属のリモコンでPR-155Xの音量調整、ミューティング（消音）ができます。
- PR-155Xをスタンバイ状態にすると、テレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

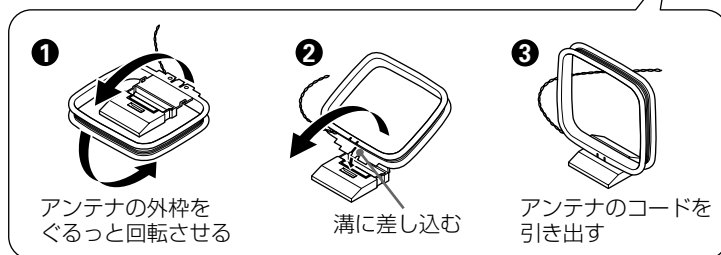
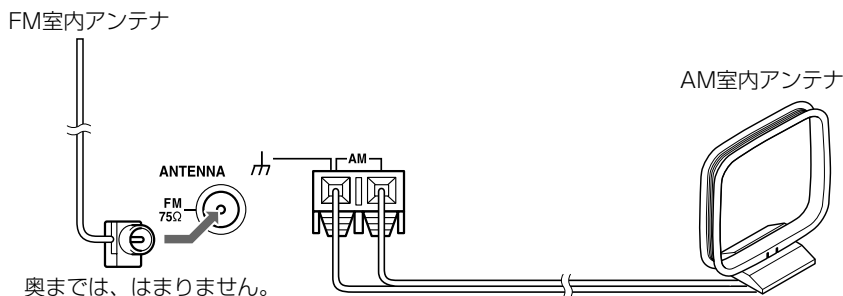
連動動作可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RIオーディオコントロール端子が装備されているかどうかをご確認ください。本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード(抵抗なし)を別途お求めください。

接続のしかた

設定のしかた

35ページを参照して設定を行ってください。

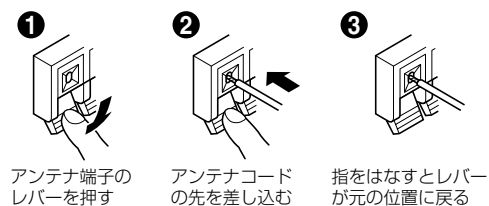
1. PR-155Xの電源を入れる。
2. PR-155XのINPUT（インプット）ボタンを（くり返し）押し、「CDR」を表示させる。
3. MEMORY（メモリー）ボタンを押し、「NAME SEL（ネーム セレクト）」を表示させる。
4. MULTI JOG（マルチ ジョグ）ダイヤルを回し、「TV」を選ぶ。
5. MULTI JOGダイヤルを押す。

他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしをつないでください。
RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでもつなげます。

■ 室内アンテナの接続

付属のFM、AM室内アンテナをつなぐ

FM室内アンテナについて

電波の強い地域では、付属のFM室内アンテナで放送を聞くことができます。放送を聞きながらひずみや雑音の最も少ない位置に押しピンなどを使ってアンテナの端を固定してください。
室内アンテナで安定した受信ができないときは、屋外アンテナを設置して接続してください。

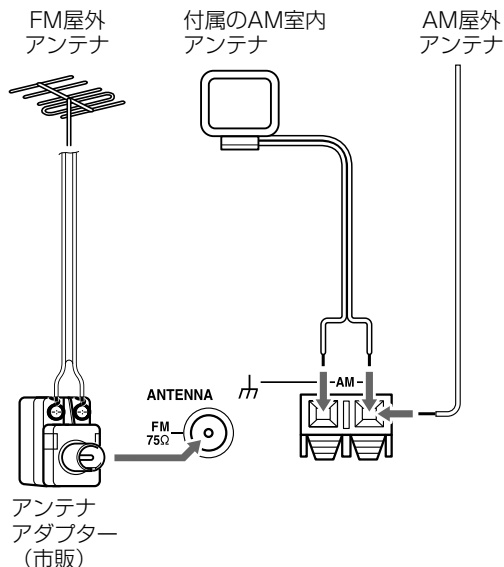
AMアンテナコードのつなぎかた

❶ アンテナ端子のレバーを押す
❷ アンテナコードの先を差し込む
❸ 指をはなすとレバーが元の位置に戻る

ご注意

雑音の原因になりますので、AM室内アンテナは本機、パソコン、テレビ、接続コードからできるだけ離して設置してください。

AM室内アンテナについて

良好な受信状態になるように設置場所を変えたり、左右に回して調整してください。

■ 屋外アンテナの接続
FM、AM屋外アンテナをつなぐ

AM屋外アンテナについて
鉄筋住宅などでAM室内アンテナだけでは受信状態が悪いときは、5m以上のビニール被覆線を窓ぎわや屋外にはってください。

ご注意

AM屋外アンテナを接続するときも、必ずAM室内アンテナを接続しておいてください。

ご注意

⚠送電線の近くは危険ですので絶対に設置しないでください。
- アンテナ工事には技術と経験が必要ですので販売店にご相談ください。

FM屋外アンテナについて
市販のアンテナアダプターを使用して、上図のように接続します。

- 建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できる所に設置してください。
- 自動車のエンジンによる雑音を避けるため、道路からできるだけ離れたところに設置してください。

電源を入れる

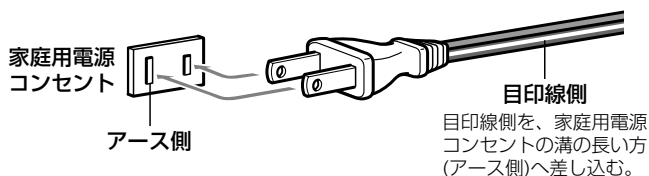
■ 電源コードを接続する

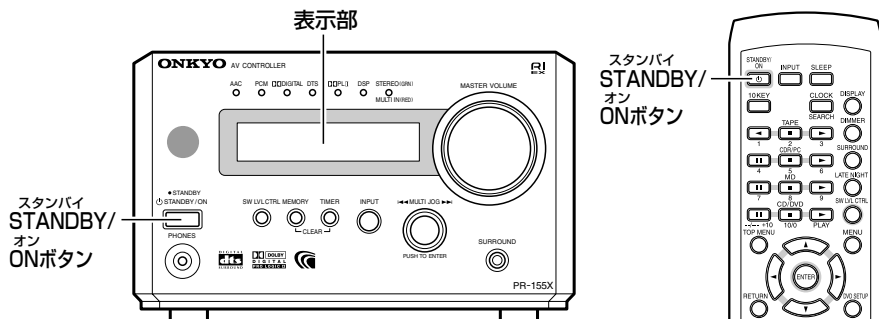
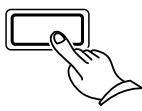
すべての接続が完了していることを確認してください。SWA-V10X、PR-155Xの電源コードを接続します。

本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れる場合がありますので、コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめいたします。

よりよい音で聞いていただくために

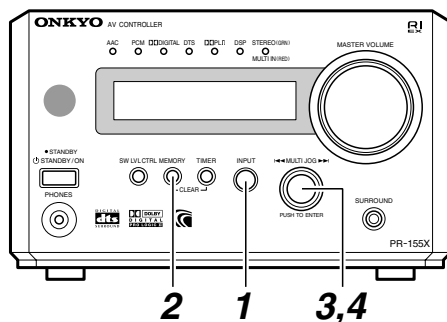
本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの片側に目印線の入っている側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

例：

MDレコーダーやCDレコーダーは、熱を持ちやすいので、PR-155Xの上に置かないようにしてください。

■ 電源を入れる

リモコンのボタンは　　で表示しています。

PR-155XまたはリモコンのSTANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンを押す

PR-155Xの表示部が点灯し、サブウーファー（SWA-V10X）のPOWER（パワー）インジケーターが点灯します。

■ 入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付き製品をDVD/CD、CDR/TAPE/TV/VIDEO端子のいずれかに接続した場合、システム動作を正しく行うために入力表示を切り換える必要があります。また、LINE端子にゲーム機器を接続した場合は、名前を変更することができます。

• 例：「CDR」から「TAPE」に入力を切り換える場合

1

INPUT

CDR

INPUTボタンを押し、現在の入力を表示させる

現在の入力「CDR」が表示部に表示されます。

2

MEMORY

NAME SEL

MEMORYボタンを押して、入力選択表示にする

1秒間「NAME SEL」と表示します。

3

MULTI JOG

PUSH TO ENTER

TAPE

MULTI JOGダイヤルを回し、接続した機器を選ぶ

この場合は「TAPE」を選びます。

CDR ↔ TAPE ↔ TV ↔ VIDEO（または LINE ↔ GAME）

または DVD ↔ DVD M, In ↔ CD（次ページ参照）

4

MULTI JOG

PUSH TO EN

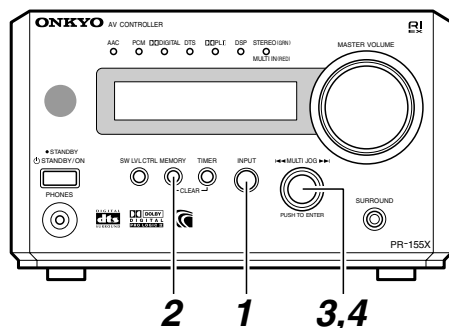
COMPLETE

MULTI JOGダイヤルを押す

「COMPLETE」が表示され、入力の切り換えが完了します。

■ マルチチャンネル音声出力設定

オンキヨー製DV-SP155のような、DVDオーディオやスーパーオーディオCDのマルチチャンネル音声に対応しているDVDプレーヤーをアナログマルチチャンネル接続した場合、PR-155Xのマルチチャンネル出力設定をする必要があります。

1

INPUT

INPUTボタンを（くり返し）押して、「DVD」を選ぶ

2

MEMORYボタンを押して、入力選択表示にする

1秒間「NAME SEL」と表示します。

3

MULTI JOGダイヤルを回し、「DVD M. In」を表示させる

DVD：アナログマルチチャンネル音声に対応していないDVDプレーヤーと接続したときに選びます。（お買い上げ時の設定）
DVD M, In：アナログマルチチャンネル音声に対応しているDVDプレーヤーと接続したときに選びます。

4

MULTI JOGダイヤルを押す

「COMPLETE」が表示され、設定が完了します。

ヒント

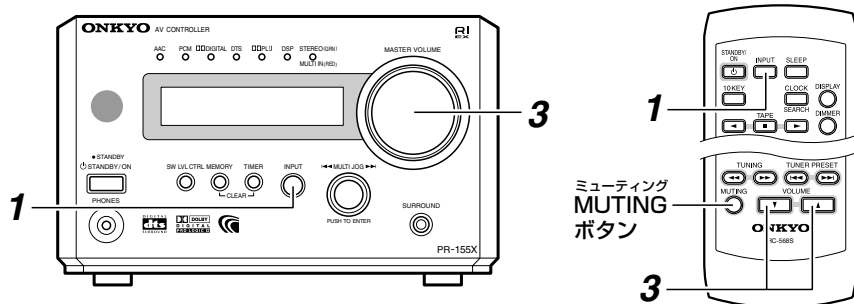
DVD M, Inに設定しているときは、使用状況によって、リモコンのMODEボタンで以下の切り換えができます。

Auto： デジタル信号を優先して再生しますが、デジタル信号が入力されていないときは、アナログマルチチャンネルを再生します。デジタル、アナログマルチチャンネル接続の両方をしている必要があります。

Multi： マルチチャンネル音声を再生するときに選びます。デジタル信号が入力されてもアナログマルチチャンネルを再生します。

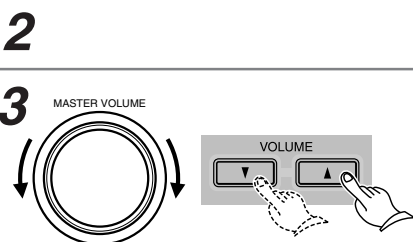
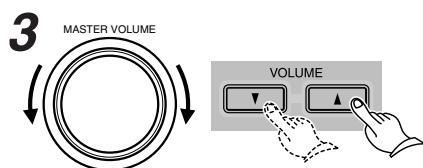
映画・音楽を鑑賞する

リモコンのボタンは　　で表示しています。

1

PR-155XまたはリモコンのINPUT(インプット)ボタンを押して、演奏する機器を選ぶ

2

選んだ機器の演奏を始める

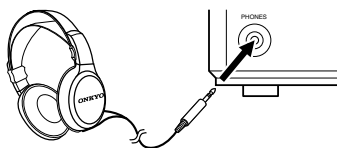
3

PR-155XのMASTER VOLUME(マスター ボリューム)ツマミまたはリモコンのVOLUME(ボリューム)ボタンで音量を調整する

音量は基本的にMin·1·2·····95·96·Maxの範囲で調整できます。本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。

■ 一時的に音量を小さくする

リモコンのMUTING(ミューティング)ボタンを押すと、表示部に「MUTING」が表示され、音量がごく小さくなります。

解除するには…

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY/ON(スタンバイ/オン)ボタンを押した場合にも解除されます。）

■ ヘッドホンで聞く

ヘッドホン端子（PHONES）にステレオミニプラグのヘッドホンを接続します。接続するときは、音量を下げてください。
自動的にステレオになり、SWA-V10Xの電源は切れますが、ヘッドホンで聞こえます。

サラウンドモードを楽しむ

■ サラウンドモードについて

本機のサラウンド再生によって、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくためには、スピーカーの設定を行う必要があります。(☞64ページ)本機には以下のサラウンドモードがあります。

次のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。

左フロントスピーカー
センタースピーカー
右フロントスピーカー
サブウーファー
左サラウンドスピーカー
右サラウンドスピーカー

STEREO(ステレオ)

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

DOLBY DIGITAL(ドルビー デジタル)/ DTS (Digital Theater System)(デジタル シアター システム)/ MPEG-2 AAC(エムペグ)

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALは、DOLBY DIGITALマーク、DTSはdtsマークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。MPEG-2 AACは、BSデジタル、地上デジタル放送で採用されている音声フォーマットです。この方式のソースの再生時に楽しむことができます。

DOLBY PRO LOGIC II(ドルビー プロ ロジック)

映画に最適なMovie(ムービー)モードと音楽再生に最適なMusic(ミュージック)モードの2つのモードが選択できます。Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。DOLBY PRO LOGIC IIは、DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、MusicモードはCDなどのステレオ音楽やライブを記録したDVDにも適しています。

オンキヨー独自のサラウンドモード(DSP)

アナログまたはPCM 信号を再生するときは、オンキヨー独自のサラウンドモードを楽しむことができます。

HALL(ホール)

クラッシックやオペラに適したモード。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

LIVE(ライブ)

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモード。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

STUDIO(スタジオ)

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモード。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

ALLCH ST(オールチャンネルステレオ)

BGMとして音楽をかける時に便利なモード。
すべてのスピーカーからステレオ音声で再生されます。サラウンドスピーカーもフロントスピーカーと同じ音が出て迫力ある音場をお楽しみいただけます。

FULL MONO(フル モノ)

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様に音楽を聞くことができます。

■ サラウンドモードを切り換える

リモコンのボタンは で表示しています。

1 **PR-155Xまたはリモコンの INPUT（インプット）ボタンを押して、再生する機器を選ぶ**

表示部に再生する機器、サラウンドインジケーターにはサラウンドモードが表示されます。

2 **選んだ機器を演奏する**

3 **PR-155Xまたはリモコンの SURROUND（サラウンド）ボタンを押して、サラウンドモードを選ぶ**

ボタンを押すたびに、モードが切り換わります。選べるモードは入力される信号の種類によって異なります。（次ページをご覧ください。）

DOLBY DIGITALのソフトをSTEREOで聞く場合

- DOLBY DIGITALを「DOLBY D（ドルビー デジタル）」で聞くとき、DTSソースを「DTS」で聞くとき、AACソースを「AAC」、「MAIN+SUB」、「MAIN」、「SUB」で聞くときは、サラウンドモードインジケーターは点灯しません。
- マルチチャンネル音声再生時は、サラウンドモードは切り換えられません。

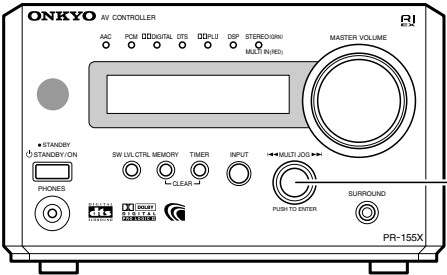
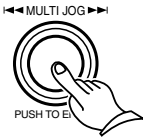
サラウンドモードを楽しむ

入力される信号と対応するサラウンドモード

信号の種類	ANALOG/PCM *1	DOLBY		DTS	MPEG-2 AAC		
		2/0以外	2/0		1+1	2/0	それ以外
ソースとなるソフト ＼ リスニングモード	カセット、CD ビデオ、ラジオ	DVDビデオ		DVDビデオ LD、CD	デジタル衛星放送 地上デジタル放送		
STEREO	●	●	●	●		●	●
PL II MOVIE	●		●			●	
PL II MUSIC	●		●			●	
DOLBY D		●					
DTS				●			
AAC							●
MAIN+SUB					●		
MAIN（主音声）					●		
SUB（副音声）					●		
HALL（DSP）	●						
LIVE（DSP）	●						
STUDIO（DSP）	●						
ALL CH ST（DSP）	●						
FULL MONO（DSP）	●						

*1 96kHzのサンプリングレートで記録されたPCMソースはSTEREOのみの再生となります。

- 再生するソースがAM放送やTVなどでモノラル音源のときに、サラウンドをPL II MOVIEまたはPL II MUSICにすると、センタースピーカーに再生音が集中することがあります。モノラル音源でサラウンド効果を得るには、他のサラウンドモードでお楽しみください。
- マルチチャンネル音声を再生しているときは、サラウンドモードは切り換えられません。
  36ページで「DVD」または「DVD M, In」のAutoに切り換えてください。
- BSデジタル放送、地上デジタル放送のときは、SURROUNDボタンを押すと主音声と副音声を切り換えることができます。

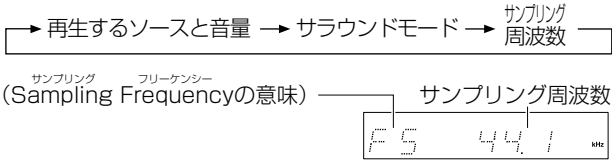
■ 表示を確認する

PR-155XのMULTI JOG（マルチ ジョグ）ダイヤルを押すたびに、表示部が次のように切り換わります（しばらくすると始めの表示に戻ります）

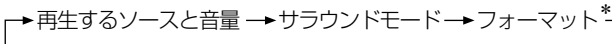
音声信号がアナログの時：再生するソースと音量 ←→ サラウンドモード

音声信号がPCMの時：

→ 再生するソースと音量 → サラウンドモード → 周波数（サンプリング）

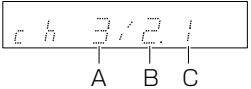
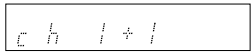
（Sampling（サンプリング） Frequency（フリーケンシー）の意味） サンプリング周波数

FS 44.1 kHz

音声信号がDOLBY DIGITAL、DTS、AACの時：

→ 再生するソースと音量 → サラウンドモード → フォーマット*

＊フォーマット表示の意味は次のようになっています。

入力ソースの信号がDOLBY DIGITAL、DTSの場合

ch 3/2.1

A B C

入力ソースの信号がAACで副音声がある場合

A: 入力信号に含まれているフロントチャンネルの数を表します。
- 3： 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2： 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1： モノラル（1チャンネル）

B: 入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数を表します。
- 2： 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1： モノラル（1チャンネル）
- 0： なし

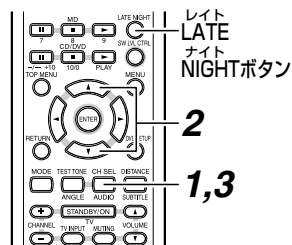
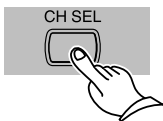
C: 入力信号に含まれているLFE（低域効果音:Low Frequency Effect）のありなしを表します。
- 1： LFEあり（サブウーファーの効果が大きい）
- ： LFEなし（サブウーファーの効果が小さい）

例えば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表わしています。

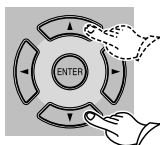
■ 一時的に各スピーカーレベルを調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。

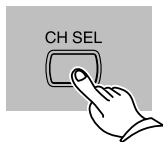
- サブウーファー（SWA-V10X）の設定は43ページをご覧ください。
- この設定は、PR-155Xをスタンバイ状態にすると解除されます。
- マルチチャンネル再生時は、スタンバイ状態にしてもこの調整内容を記憶しています。

1

再生中にリモコンのCH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、音量レベルを調整するスピーカーを選ぶ

L:左フロントスピーカー　C:センタースピーカー　R:右フロントスピーカー
SR:右サラウンドスピーカー　SL:左サラウンドスピーカー　SW:サブウーファー
を示します。

2

リモコンの▲/▼ボタンを押して、各スピーカーの音量レベルを調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。−12〜+12の範囲で設定できます。（サブウーファーは、−30〜+12の範囲で設定できます。）

3

CH SELボタンを押す

サブウーファーを選んでいるときに、CH SELボタンを押すと、通常の表示に戻ります。

■ レイトナイト機能について（DOLBY DIGITALソフト再生時のみ）

ドルビーデジタル録音されたソフトを再生するとき、ダイナミックレンジ（音量の大小幅）を小さくします。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するとき、小さな音も聞こえやすくなります。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

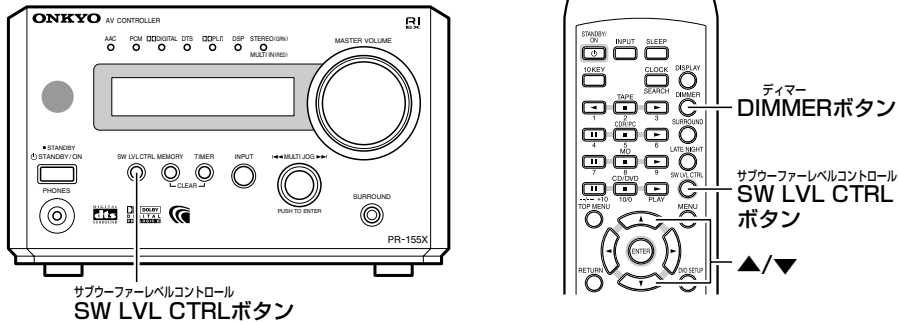
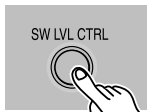
LATE（レイト） NIGHT（ナイト）ボタンを押す

押すたびにONとOFFを切り換えることができます。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって少なかったり、効果がない場合もあります。

■ サブウーファーレベルを変える

PR-155Xまたはリモコンでサブウーファー（SWA-V10X）の音量レベルを切り換えることができます。この設定は、PR-155Xをスタンバイ状態にすると解除されます。

リモコンのボタンは　　で表示しています。

PR-155X

リモコン

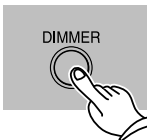
SW LVL CTRLボタンを押して、サブウーファーレベルを切り換える

ボタンを押すたびに

のように3段階にレベルが切り換わります。

リモコンの▲/▼ボタンを押すか、PR-155XのMULTI JOGダイヤルを回すと、＋12〜−30の間で1目盛りずつ切り換わります。

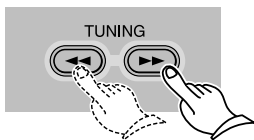
- サブウーファーのレベルを「−30」にすると、サブウーファー（SWA-V10X）からの音がごく小さくなります。

表示部の明るさを変える　DIMMER 機能

DIMMERボタンを押す

押すたびに表示部の明るさが3段階に切り換わります。

→ ふつう → やや暗い → 暗い

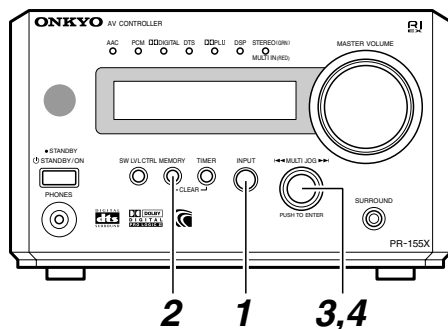
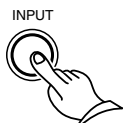
ラジオを聞く

■ オートチューニングをする（リモコン操作のみ）

FM放送の場合は、リモコンのTUNINGボタンをしばらく押してから手を放すと、自動的に周波数が上がり（下がり）放送局を受信します。（放送局は記憶しません）

ラジオの放送局を記憶させるには、次の2通りの方法があります。
- 受信可能なFM放送局を続けて受信し、自動的に記憶させるオートプリセットメモリー。
- 希望の放送局を受信し、希望のプリセットナンバーに記憶させるプリセットメモリー。

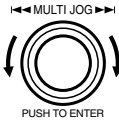
ご注意

電源コードを抜いたり停電状態が2週間以上続くと、プリセットされていた放送局や文字などは消えることがあります。その場合は、再度プリセットしてください。

■ 自動的に放送局を記憶させるオートプリセットメモリー（FMのみ）

1 INPUTボタンでFMを選ぶ

表示部に“FMと周波数”が表示されます。

2 “NAME IN”または“PR WRITE”と表示するまで、MEMORYボタンを押し続ける

3

MULTI JOGダイヤルを回し、"AUTO PR"を表示させる

4

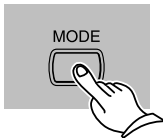
MULTI JOGダイヤルを押して、オートプリセットメモリーを始める

"▶●◀"が点滅し、周波数表示が出て放送局を探し始めます。

- プリセット番号は周波数の低い順から自動的に、最大20局まで放送局を記憶します。
- FMの受信周波数は76.00～108.00MHzですが、オートプリセットは76.00～90.00MHzの間で行います。

ご注意

今までに記憶させたすべての放送局は、オートプリセットメモリーで記憶させた放送局に変更されます。

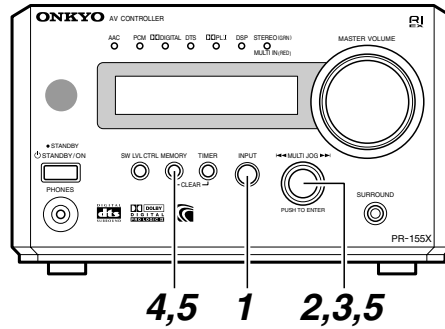
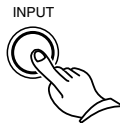
■ オート/モノを切り換える（リモコン操作のみ）

ステレオ点灯 "AUTO"表示

FMステレオ放送を受信する場合はリモコンのMODEボタンを押し、"AUTO"を表示させます。

- オートモードでFMステレオ放送を受信すると" ST "(STEREO表示)が点灯します。

- 電波の弱い所や雑音の多い所では " ST "表示は点灯しません。
  " ST "表示が点滅している場合はもう一度MODEボタンを押して、"AUTO"表示を消してモノラル受信してください。雑音や音の途切れを軽減することができます。
- 受信状態の悪い場合は、室内アンテナの方向を変えたり、窓際などの電波の強い場所へ移動してみてください。それでも改善されない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。

■ 希望の放送局を受信し、記憶させるプリセットメモリー

記憶させることのできる放送局はAM、FM合わせて30局です。30局を越えると、“MEM FULL”表示になり、それ以上は記憶できません。

1 **PR-155XのINPUTボタンを(くり返し)押して、FMまたはAMを選ぶ**

INPUT

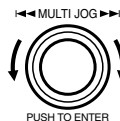
2 **MULTI JOGダイヤルを(くり返し)押して、周波数を表示させる**

MULTI JOG
PUSH TO ENTER

プリセット表示

FM P- - -

周波数表示

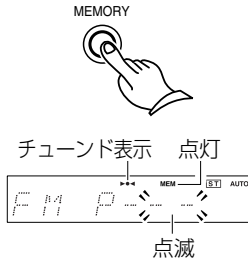
FM 76.00 MHz

3 **MULTI JOGダイヤルを回して、希望の放送局(周波数)を選ぶ**

MULTI JOG
PUSH TO ENTER

MULTI JOGダイヤルを左右に回すと周波数が変化します。

　左に回す：周波数が下がります。
　右に回す：周波数が上がります。

ヒント

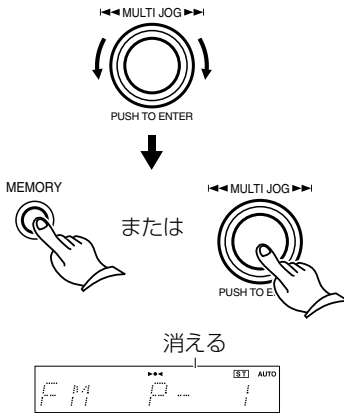
放送局を受信すると表示部にチューンド表示“▶●◀”が点灯します。

MEMORYボタンを押す

- “MEM”(MEMORY表示)が点灯し、プリセット番号表示になります。

ご注意

MEMORYボタンを押したあとに約10秒間次の操作をしなかった場合、元の周波数表示に戻ります。

5

消える

プリセット番号を選び、記憶させる

MULTI JOGダイヤルを回して“-- --”に希望のプリセット番号を表示させます。

- すでにプリセットされている番号は、表示の点滅が早くなります。このとき、あらたにプリセットすると元の放送局は消去されます。
- MEMORYボタンまたは、MULTI JOGダイヤルを押すと“COMPLETE”と表示され、手順***3*** で選んだ放送局が記憶されます。

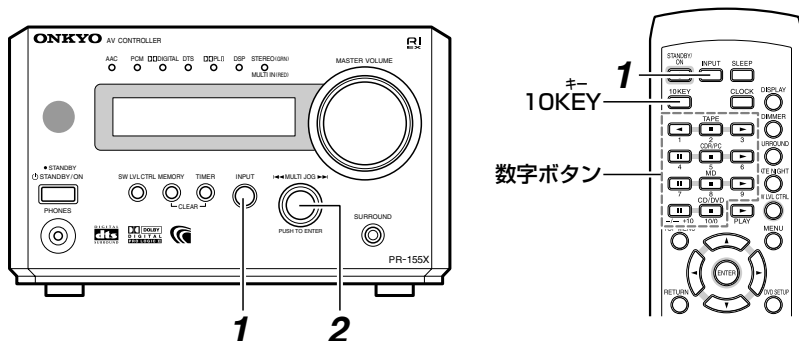
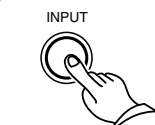
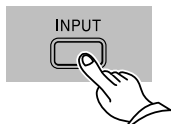
次の放送局をメモリーするには、手順***3*** ～***5*** をくり返します。

以下の方法でも操作することができます。

1）記憶させたい周波数を選んでから“PR WRITE”と表示されるまでMEMORYボタンを押し続ける
2）MULTI JOGダイヤルを押す
3）MULTI JOGダイヤルを回してプリセット番号を選び、MULTI JOGダイヤルを押す

■ プリセットした放送局を聞く

リモコンのボタンは　　で表示しています。

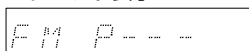
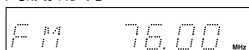
1

INPUT（インプット）ボタンを（くり返し）押して、FMまたはAMを選ぶ

2

プリセット表示

FM P- - -

周波数表示

FM 76.00 MHz

聞きたい局のプリセット番号を選ぶ

PR-155Xで操作する場合

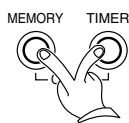
MULTI JOG（マルチ ジョグ）ダイヤルを(くり返し)押し、プリセット番号を表示させてからMULTI JOGダイヤルを押します。

リモコンで操作する場合

10KEY（キー）ボタンを押した後、数字ボタンを押して希望のプリセット局を受信してください。または、⏮/⏭ボタンを押して選局します。

5 ：「5」を押します。
12 ：「--/--- ＋10」、「1」、「2」を押します。
25 ：「--/--- ＋10」、「2」、「5」を押します。

- AM放送を受信中にリモコン操作をすると、雑音が入ることがあります。

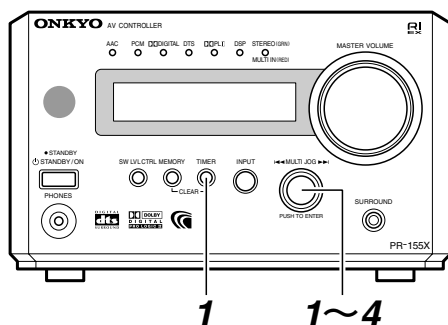
■ プリセットした放送局を消す

- 上記「プリセットした放送局を聞く」の方法にしたがって、消したい放送局を選びます。
- MEMORY（メモリー）ボタンを押しながら、TIMER（タイマー）ボタンを押します。
プリセット局表示が P −−− になり、消去されます。

現在時刻と曜日を合わせる

■ 時刻合わせをする

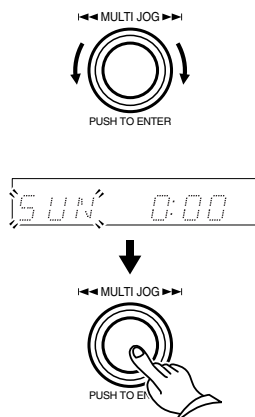
本書では24時間表示での設定方法を説明していますが、12時間表示に切り換えることもできます。

ご注意

- 時計を合わせたあとで停電があったり、電源コードをコンセントから抜いた場合は、表示部が消灯します。この時は再度時刻を合わせてください。
- 時計機能をご使用になる場合は、必ず本機の電源コードを常時通電している電源コンセントに接続してください。

電源が入った状態で操作します。

PR-155XのTIMERボタンを(くり返し)押して、“CLOCK”を表示させる

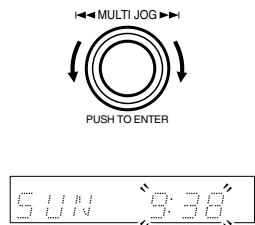
“CLOCK”が表示されたら、MULTI JOGダイヤルを押します。

2

MULTI JOGダイヤルを回して、曜日を合わせる

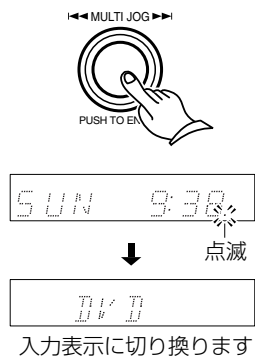
- 希望の曜日が点滅しているときに、MULTI JOGダイヤルを押します。

曜日の表示は下記の通りです。

SUN	（日曜日）	THU	（木曜日）
MON	（月曜日）	FRI	（金曜日）
TUE	（火曜日）	SAT	（土曜日）
WED	（水曜日）		

3

MULTI JOGダイヤルを回して、時計を合わせる

SUN 9:38

4

時計をスタートさせる

時報などに合わせて、MULTI JOGダイヤルを押してください。入力表示に切り換わります。

入力表示に切り換ります

ご注意

24時間表示／12時間表示を切り換えるには

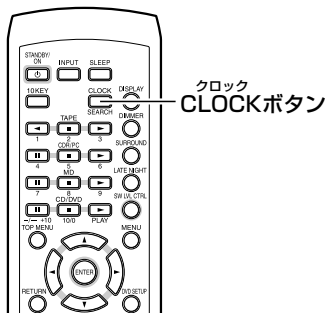
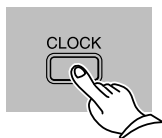
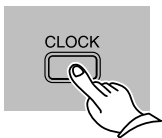
1. PR-155XのTIMERボタンを（くり返し）押して、“24H/12H”を表示させる。
- 表示部に“24H/12H”が表示されます。

2. MULTI JOGダイヤルを押す。

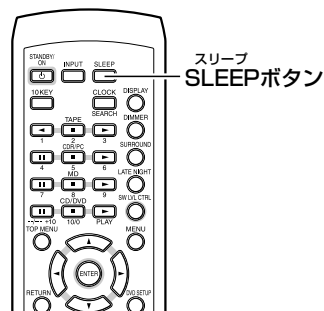
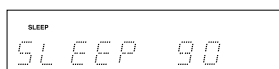
3. MULTI JOGダイヤルを回して24H（24時間表示）または12H（12時間表示）を選ぶ。

4. MULTI JOGダイヤルを押し、決定する。

現在時刻を表示する

• リモコンのCLOCKボタンを押します。
時刻合わせがされていませんと"ADJUST"を点滅表示します。時刻合わせをしてください。
(☞49ページ)

タイマー機能を使う

■スリープタイマー

• 設定した時間がたつと、スタンバイ状態になります。

リモコンのSLEEP（スリープ）ボタンを押して、スタンバイ状態になるまでの時間を設定する

「SLEEP（スリープ） 90」が表示され、90分後にスタンバイ状態になる設定になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

• スリープタイマー設定中は、SLEEPインジケーターが点灯します。

残り時間を確かめるには

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すとスタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。
ただし、残り時間が10分以下の表示のときに、再びSLEEPボタンを押すとスリープタイマーは解除されます。

スリープタイマーを解除するには

「SLEEP OFF」と表示するまでくり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れてください。

「CDダビング」中にスリープタイマーの設定時間になった場合、「CDダビング」が完了した後にスタンバイ状態になります。

■タイマー予約について

タイマー番号の選択
タイマーは4つまで設定することができます。

タイマーの種類
- タイマーPLAY（再生）は設定した時間になると選択した機器が再生を始めます。
- タイマーREC（録音）は設定した時間になると選択した機器の録音を始めます。
（タイマーRECはPR-155Xに接続したRI端子付きのオンキヨー製MDレコーダーまたはテープデッキに録音します。入力表示を正しく設定してください。）

演奏機器の設定
AM、FMまたはPR-155Xに接続しているタイマー機能のある外部機器が選択できます。
タイマーREC（録音）はFM、AMから選択できます。

曜日の設定
タイマーは1回だけ働く「ONCE（ワンス）タイマー」と毎週設定した曜日、時間に働く「EVERY（エブリィ）タイマー」があります。
また、EVERYタイマーには「EVERYDAY（エブリィディ）（毎日）」、「毎週月曜から金曜」や「毎週の土曜と日曜」など、連続した曜日を自由に設定することができます。

例）
TIMER（タイマー） 1　毎朝の目覚ましがわりに
　タイマーPLAY(再生)—EVERY—EVERYDAY(毎日)—7:00～7:30
TIMER 2　毎週のラジオ放送を録音
　タイマーREC(録音)—EVERY—MON(月曜日)～SAT(土曜日)—15:10～15:30
TIMER 3　今週の日曜だけラジオ放送を録音
　タイマーREC(録音)—ONCE—SUN(日曜日)—10:00～12:00

ご注意
- タイマー再生中または録音中は、現在時刻や終了時刻などの設定を変更することはできません。
- 現在時刻が設定されていないと、タイマー予約はできません。必ず時刻を合わせてください。
- PR-155Xに接続した機器のタイマーを予約するときは接続を確実に行ってください。接続が不完全ですとタイマー再生やタイマー録音はできません。

タイマー表示について
TIMER

タイマーが1つでも設定されていると、TIMER表示が点灯します。TIMERボタンを（くり返し）押し、タイマーの種類を表示させた時に点灯していたら、設定されている状態です。

同じ曜日にタイマー予約の時間が重なった場合
- 開始時刻が早いタイマーが優先されます。
- 開始時刻が同じ場合はタイマー番号が早い方が優先されます。

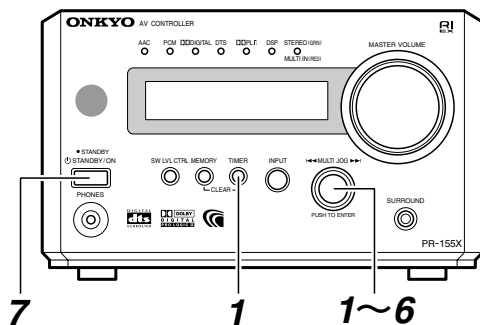
TIMER 1　9：00 －10：00
TIMER 2　8：00 －10：00　← 優先(タイマー開始時刻が早い方)

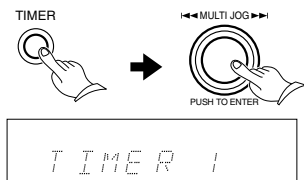
TIMER 3　12：00 －13：00　← 優先（タイマー番号が早い方）
TIMER 4　12：00 －12：30

■タイマーを予約する

FM、AMのタイマー予約をするには、あらかじめ放送局をプリセットしておいてください。
(☞44ページ)

ご注意

現在時刻が設定されていないと、タイマー予約はできません。
設定中60秒間何も操作しないと通常の表示に戻ります。

本体のみの操作です。

1 ＜タイマー番号の選択＞

TIMER(タイマー)ボタンを（くり返し）押して、設定するタイマーの番号を選ぶ

TIMER 1からTIMER 4のいずれかを選び、MULTI(マルチ) JOG(ジョグ)ダイヤルを押します。

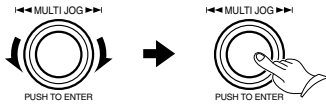
上部のTIMER表示は、現在タイマーが設定されているかを示します。

BASE-V10X(44-59)(SN29343589A) 54 04.7.21, 1:05 PM

2 ＜タイマー種類の選択＞

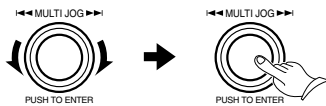
PLAY

または

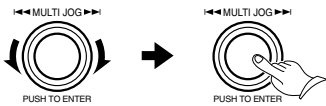
REC

MULTI JOGダイヤルを回して、タイマーPLAY（再生）またはタイマーREC（録音）を選ぶ

タイマーの種類が表示されたらMULTI JOGダイヤルを押します。タイマーRECは接続したオンキヨー製MDまたはTAPEに録音されます。

3 ＜演奏機器の選択＞

DVD M, IN

MULTI JOGダイヤルを回して、演奏する機器を選ぶ

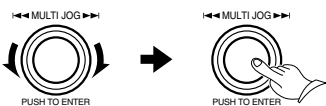
演奏する機器が表示されたらMULTI JOGダイヤルを押します。
タイマーREC(録音)はFMまたは、AMから選べます。

FMまたはAMを選んだ場合

FM 85.10 MHz

MULTI JOGダイヤルを回して、プリセット番号を選ぶ

プリセット番号が表示されたらMULTI JOGダイヤルを押します。

＜録音機器の選択＞（タイマーREC設定時のみ）

TO MD

MULTI JOGダイヤルを回して、録音する機器を選ぶ

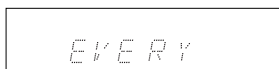
「MD」または「TAPE」、「MDとTAPE」から選べます。接続している機器に合わせて選択してから、MULTI JOGダイヤルを押します。

- 「TAPE」は35ページで入力表示を「TAPE」にしているときのみ表示されます。

4 ＜曜日の設定＞

EVERY

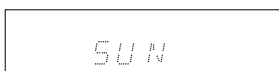
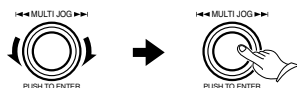
MULTI JOG（マルチ ジョグ）ダイヤルを回して、“ONCE（ワンス）”または“EVERY（エブリィ）”を選ぶ

“ONCE“を選ぶと1度だけ、“EVERY”を選ぶと毎週タイマーが働きます。
選んだらMULTI JOGダイヤルを押します。

“ONCE”の場合：設定した曜日に１度だけ働きます。

SUN

MULTI JOGダイヤルを回して、曜日を選ぶ

曜日を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。
曜日の表示は下記の通りです。

MON（月曜日）　FRI（金曜日）
TUE（火曜日）　SAT（土曜日）
WED（水曜日）　SUN（日曜日）
THU（木曜日）

“EVERY”の場合：設定した曜日に毎週働きます。

MULTI JOGダイヤルを回して、曜日を選ぶ

曜日を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。

MON（月）⇔ TUE（火）⇔ WED（水）⇔ THU（木）⇔ FRI（金）
⇕　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　⇕
SUN（日）⇔ DAYS SET［曜日の範囲をお好みで設定します。］⇔ EVERYDAY ⇔ SAT（土）

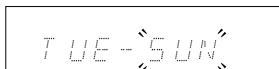
「DAYS SET（ディズ セット）」を選んだ場合（連続した曜日の範囲をお好みで設定します。）

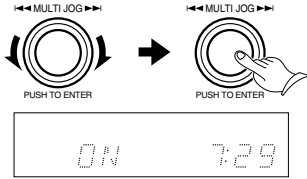
① MULTI JOGダイヤルを回して、最初の曜日を選ぶ

曜日を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。

② MULTI JOGダイヤルを回して、最後の曜日を選ぶ

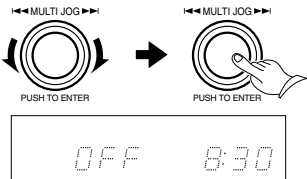
曜日を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。

TUE-SUN

この場合、毎週火曜から日曜の設定した時間にタイマーが働きます。

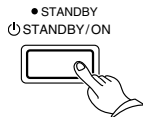
5 <開始時刻の設定>

MULTI JOGダイヤルを回して、タイマー開始時刻を設定する

時刻を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。

- 開始時刻（ON）を設定すると終了時刻（OFF）は自動的に1時間後の表示になります。
- MDレコーダーにタイマー録音するとき、開始後数秒間は録音されない場合がありますので録音開始時刻を1分程早めに設定してください。

6 <終了時刻の設定>

MULTI JOGダイヤルを回して、タイマー終了時刻を設定する

時刻を表示させたらMULTI JOGダイヤルを押します。

7 <スタンバイにする>

電源をスタンバイ状態にする

STANDBYボタンを押して電源をスタンバイ状態にします。

- タイマー録音中はミューティングが働いており、サブウーファー（SWA-V10X）の電源は入りません。
  録音中の音を確認したい時は、MUTINGボタンを押して解除するとサブウーファーの電源が入り音が聞こえます。

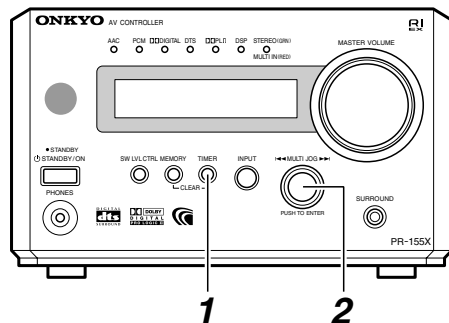
- MDレコーダーにタイマー録音するときは、MDの録音入力の設定は必ず「Analog In」にしてください。
- 電源がスタンバイ状態以外の時には、タイマーの予約時刻になってもタイマー動作しません。タイマー動作させる時には、必ず電源をスタンバイ状態にしておいてください。

タイマー予約をやり直したいときは…

TIMERボタンを押し、最初から設定してください。

タイマー機能を使う

■ タイマーのオン(実行)/オフ(取消し)を切り換える

- 予約したタイマーの実行を取り消したいとき、タイマーを再び実行させたいときに使います。
- 現在時刻が設定されていないとタイマー予約はできません。

本体のみの操作です。

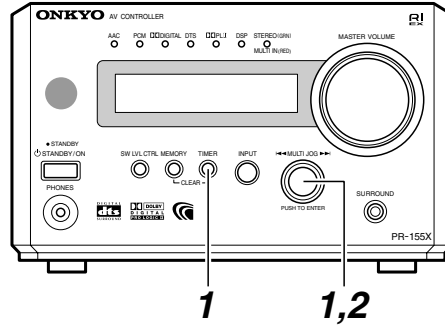
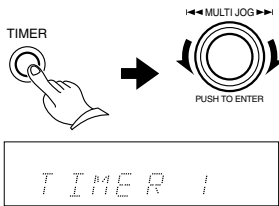
1 TIMERボタンを(くり返し)押して、設定したいタイマーの番号を表示させる

タイマー番号の上に“TIMER”が点灯していたら、オン（実行）で設定されている状態です。

2 MULTI JOGダイヤルを回して、オン(実行)/オフ(取消し）を切り換える

切り換えると約2秒後にもとの表示に戻ります。

■ タイマー設定の内容を確認する

1

TIMER(タイマー)ボタンを（くり返し）押して、確認したいタイマーの番号を表示させ、MULTI JOG(マルチ ジョグ)ダイヤルを押す

タイマー番号の上に“TIMER”が点灯していたら、オン（実行）で設定されている状態です。

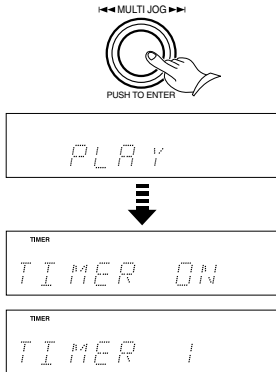
2

MULTI JOG

PUSH TO ENTER

PLAY

TIMER

TIMER ON

TIMER

TIMER 1

MULTI JOG(マルチ ジョグ)ダイヤルを押して、次の内容を確認する

押すたびに次の設定内容が確認できます。

確認中MULTI JOGダイヤルを回して設定内容を変更することもできます。
TIMER設定がOFFになっている場合、設定内容を変更すると自動的にタイマー設定がONになります。

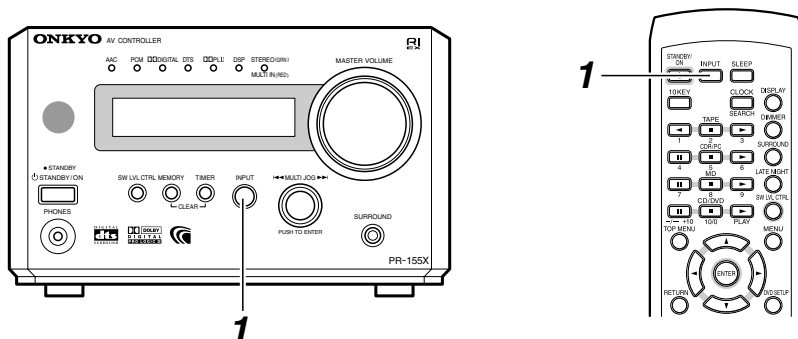
すべての項目を確認し、設定に変更がないともとの表示に戻ります。
通常の表示にするにはTIMERボタンを押します。

録音する

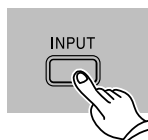
あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

■ 録音する

リモコンのボタンは　　　で表示しています。

1

INPUT

INPUT

PR-155X　　リモコン

INPUT（インプット）ボタンを押して、録音する機器（再生側）を選ぶ

2

録音する機器（録音側）の準備をする

- 録音機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

3

録音を始める

1 で選んだ再生機器を演奏します。

ご注意

- オンキヨー製RI端子付き製品を使ってCD DUBBING（ダビング）、シンクロ録音等のシステム録音を行うには、入力表示を正しく設定してください。（☞35ページ）
- DVDプレーヤーと組み合わせる場合、CD-DUBBING、シンクロ録音機能が働かない機種があります。その場合は、シグナルシンクロ録音で録音してください。
- デジタル録音は再生機器のデジタル出力を録音機器のデジタル入力へ接続することが必要です。
- 録音中にINPUT（入力）を切り換えないでください。正しい録音ができません。

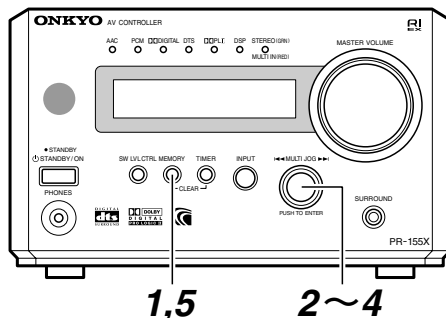
文字を入れる

■ 文字を登録する

プリセットメモリーした放送局ごとの愛称を好みの文字を使って8文字まで表示することができます。

• 文字の種類は次の通りです。

＿ A B C D E F G H I J K L
M N O P Q R S T U V W X Y Z
" ' & ( ) [ ] ＊ ＋ , − . / = ?
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
＿ はスペースを意味します。

文字を入れたい放送局を選んでください。

1 MEMORY

"NAME IN"と表示するまでMEMORYボタンを押す

2 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

MULTI JOGダイヤルを押す

3 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

文字を選ぶ

MULTI JOGダイヤルを回して文字の種類を選びます。

4 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

MULTI JOGダイヤルを押して、文字を記憶させる

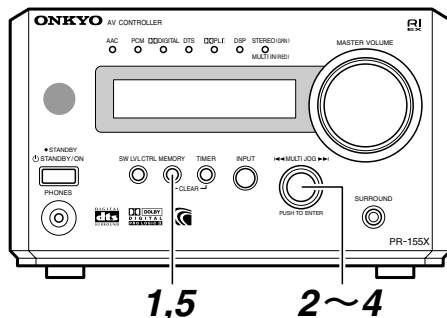
• 手順***3***、***4*** をくり返して合計8文字まで記憶させることができます。

ヒント 空白にしたいときは、空白のままでMULTI JOGをダイヤル押してください。

5 MEMORY

ONKYO

MEMORYボタンを押して、登録する

■ 文字を変更する

変更したいプリセット局を選んだ状態にしてください。

1 MEMORY

"NAME IN"と表示するまでMEMORYボタンを押す

2 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

MULTI JOGダイヤルを押す

NAME IN → ONKHO

3 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

ONKHO

変更する文字を選ぶ

MULTI JOGダイヤルを押して、変更したい箇所まで点滅を移動させます。

4 MULTI JOG / PUSH TO ENTER

ONKYO

MULTI JOGダイヤルを回して、文字の種類を選ぶ

- 選んだらをMULTI JOGダイヤルを押します。
- 他に変更したい文字があるときは、手順***3***、***4***をくり返します。

5 MEMORY

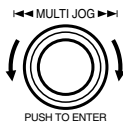
ONKYO

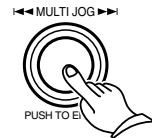
MEMORYボタンを押して、変更登録する

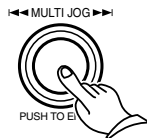
文字を消去する

①

"NAME IN"と表示するまでMEMORYボタンを押します。

②

MULTI JOGダイヤルを回して、"NAME ERS"を表示させます。

③

MULTI JOGダイヤルを押すと、表示されていた文字が全て消えます。

表示を切り換える

MULTI JOGダイヤルを押すごとに

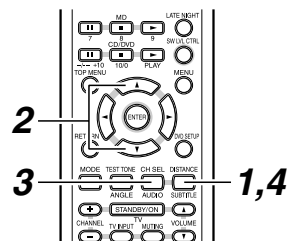
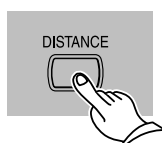
周波数→ プリセット番号
（文字を入力していれば文字）

の順に切り換わります。

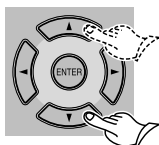
プリセットした放送局は、文字を優先して表示します。文字を登録していないときは、周波数またはプリセット番号の表示となります。

スピーカーまでの距離を設定する

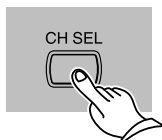
聞く位置から設置したスピーカーまでの距離を設定します。
距離を設定することで、それぞれのスピーカーから聞く位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。スタンバイ状態にしても記憶しています。

1

リモコンのDISTANCE（ディスタンス）ボタンを押す

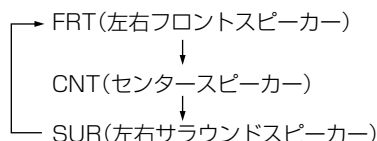
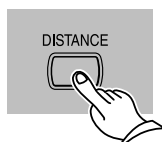
表示部にフロントスピーカーまでの距離が表示されます。

2

▲/▼ボタンを押し、実際の距離に近い数値に設定する

▲ボタンを押すと数値が上がり、▼ボタンを押すと下がります。0.3m単位で9.0mまで設定できます。

3

CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、スピーカーを切り換え、聞く位置からそれぞれのスピーカーまでの距離を設定する

ボタンを押すたびに、スピーカーの表示が次のように切り換ります。設定方法は、手順 ***2*** と同じです。

→ FRT（左右フロントスピーカー）
↓
CNT（センタースピーカー）
↓
SUR（左右サラウンドスピーカー）

4

DISTANCEボタンを押す

設定したスピーカーの距離が記憶され、通常の表示に戻ります。

ご注意

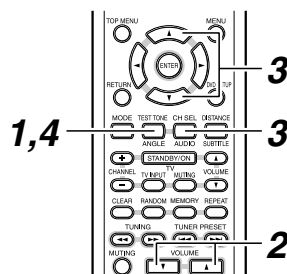
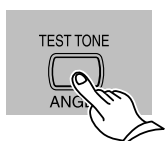
- センタースピーカーは左右フロント、左右サラウンドスピーカーよりも近くに設置/設定してください。
- センタースピーカーは左右フロント、左右サラウンドスピーカーより1.5mまで近くに設置/設定できます。
- 左右サラウンドスピーカーは、左右フロントスピーカーより4.5mまで近くに設置/設定できます。
- ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
- マルチチャンネル音声再生時は、この設定はできません。

BASE-V10X(60-76)(SN29343589A) 64 04.7.21, 1:06 PM

各スピーカーの音量レベルを設定する

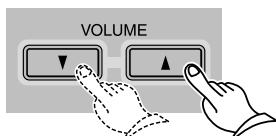
各スピーカーからの音量が同じように聞こえるよう、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。

- 設定中にDVDの音声を切り換えるとテストトーンが止まり、設定モードが解除されてしまうことがあります。
- ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。
- スタンバイ状態にしても、この調整内容を記憶しています。

1

リモコンのTEST TONE（テスト トーン）ボタンを押す

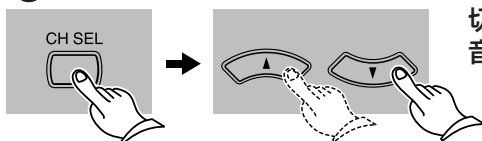
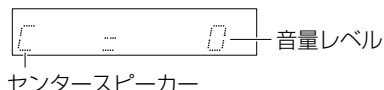
下記の順で各スピーカーから「ザー」というテスト音が出ます。

L（左フロントスピーカー）→ C（センタースピーカー）→ R（右フロントスピーカー）→ SR（右サラウンドスピーカー）→ SL（左サラウンドスピーカー）→ SW（サブウーファー）→ L（左フロントスピーカー）

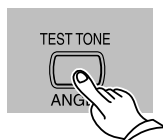
2

音量を調整する

テスト音が良く聞こえる音量にVOLUME（ボリューム）（▲/▼）ボタンで調整してください。

- テスト音は何も操作しないでいると、自動的に次のスピーカーに移り、2秒ずつテスト音を出力します。10回くり返して止まります。

3

CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押してスピーカーを切り換え、▲/▼ボタンでスピーカーの音量が同じに聞こえるように調整する

▲ボタンを押すと音量が上がり、▼ボタンを押すと下がります。

- −12〜＋12の範囲で設定できます。
- サブウーフーファは−30〜＋12の範囲で設定できます。

4

TEST TONEボタンを押す

設定したスピーカーの音量レベルが記憶され、通常の表示に戻ります。

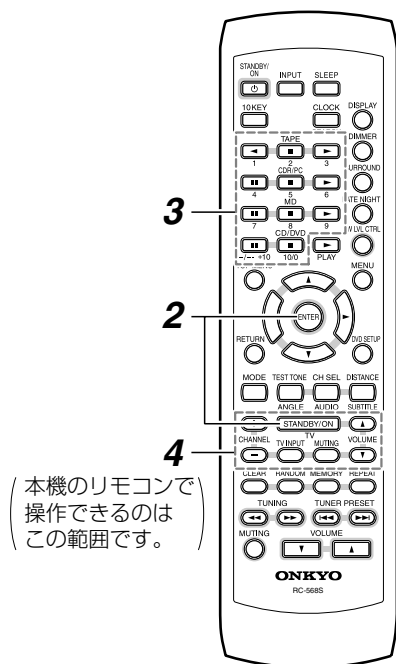
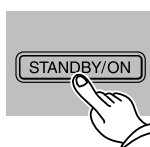
ご注意

テスト音は小さめなので、手順***2*** でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、手順***3*** が終了した後にVOLUME（▲/▼）ボタンで元の音量に戻しておいてください。

リモコンでテレビを操作するには

付属のリモコン(RC-568S)で、お使いのテレビを操作することができます。
リモコンでテレビを操作するには、あらかじめテレビのリモコンコードを登録する必要があります。

■ テレビのリモコンコードを登録するには

本機のリモコンで操作できるのはこの範囲です。

1 登録したいテレビのメーカー別リモコンコード(3桁)を次ページのリモコンコード表で確かめる

2 STANDBY/ON(スタンバイ/オン)ボタンを押しながら、ENTER(エンター)ボタンを押し、両方から指を離す

3 3桁のリモコンコードを入力する

- 数字ボタンを使用して、30秒以内に入力してください。
  この場合、10KEY(キー)を押す必要はありません。
  数字ボタンのみで登録します。

4 リモコンコードが正しく登録されたかを確かめる

- テレビ操作ボタンを使用して、正しくテレビが動作することを確認してください。

■ メーカー別リモコンコード表

• 複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

メーカー名	リモコンコード	メーカー名	リモコンコード
AIWA（ｱｲﾜ）	100,101	MARANTZ（ﾏﾗﾝﾂ）	164
AKAI（ｱｶｲ）	102,103,104	MARK（ﾏｰｸ）	165
AUDIO SONIC（ｵｰﾃﾞｨｵｿﾆｯｸ）	105	MATSUI（ﾏﾂｲ）	166,167,168,169
BELL&HOWELL（ﾍﾞﾙﾊｳｴﾙ）	106	MITSUBISHI（ﾐﾂﾋﾞｼ）	170,171,172,173
BLAUPUNKT	107	MIVAR	174,175
BRIONVEGA	108,109	NEC	176,177
CENTURION	110	NOKIA（ﾉｷｱ）	178,179,180,181
COLTINA	111,112,113	NOKIA OCEANIC	181
CORONAD	114	NORDMENDE	182,183
CROWN（ｸﾗｳﾝ）	115,116	OKANO（ｵｶﾉ）	152
DAEWOO	117,118,119,120,121	ORION（ｵﾘｵﾝ）	184,185,186
DUAL	122	PANASONIC（ﾊﾟﾅｿﾆｯｸ）	187,188,,189,190
EMERSON（ｴﾏｰｿﾝ）	123,124,125,126,127	PHILIPS（ﾌｨﾘｯﾌﾟｽ）	162,191,152
FENNER	128,129	PIONEER（ﾊﾟｲｵﾆｱ）	192,193
FERGUSON	130,131	PROSCAN（ﾌﾟﾛｽｷｬﾝ）	194
FISHER（ﾌｯｼｬｰ）	132	QUASAR	195
FUNAI（ﾌﾅｲ）	133,134,135	RADIOSHARX（ﾗｼﾞｵｼｬｰｸ）	196
FUJITSU GENERAL（ﾌｼﾞﾂｳｾﾞﾈﾗﾙ）	136,137,138	RCA	141,197,198,110,199,200
GE·PANA	139,140	SABA（ｻﾊﾞ）	201,182,183
GE·RCA	141	SAMSUNG（ｻﾑｽﾝ）	202,203,204,205,206,207,208
GOLD STAR（ｺﾞｰﾙﾄﾞｽﾀｰ）	142,143	SANYO（ｻﾝﾖｰ）	209,210,211,212
GOODMANS（ｸﾞｯﾄﾞﾏﾝｽﾞ）	144	SCHNEIDER	103
GRUNDIG	145,146	SEARS（ｼｱｰｽﾞ）	213
HITACHI（ﾋﾀﾁ）	147,148,149,150	SELECO（ｾﾚｺ）	214,215
HYPER（ﾊｲﾊﾟｰ）	151	SHARP（ｼｬｰﾌﾟ）	216,217
INNO-HIT	152	SONY（ｿﾆｰ）	218,219,220,221,222,223
IRRADIO	103	SYMPHONIC（ｼﾝﾌｫﾆｯｸ）	224,225
JVC（日本ﾋﾞｸﾀｰ）	153,154,155,156,157	TELEFUNKEN	201,225,227
KENDO	158	THOMSON（ﾄﾑｿﾝ）	228
KTV	159,160	TOSHIBA（ﾄｳｼﾊﾞ）	213,229
LUXOR	161	UNIVERSUM	230
MAGNAVOX（ﾏｸﾞﾅﾎﾞｯｸｽ）	162,163	ZENITH	231,232

初期設定 100

オーディオ用語集

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）
従来の4チャンネル（左右フロント、センター、モノラルのサラウンドチャンネル）のプロロジックサラウンドと5.1チャンネルのドルビーデジタルサラウンドの橋渡しをする、次世代の5チャンネルサラウンド方式です。
ドルビープロロジックIIは、マトリックスデコード技術で、サラウンドチャンネルがステレオであること、その再生帯域がフルバンドのためあらゆるステレオ音源を5.1chライクな立体音場で楽しむことができます。映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社よって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション（Dialog normalization）、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮（Dynamic range compression）、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックス（Downmix）など数々の機能が採り入れられています。
DVD－Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。いずれのフォーマットでも、ご家庭でも簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサラウンドをご体験いただけます。

MPEG－2 AAC
AAC（Advanced Audio Coding）は、AT＆T社、ドルビーラボラトリーズ、フラウンホーヘル・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット(Fraunhofer IIS)、そしてDTSデジタルサラウンド(DTS Digital Surround)、ソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG－2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーではデコードできません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS（Digital Theater Systems）社が開発したデジタルサラウンドフォーマットです。コヒレントアコースティックス符号化（Coherent Acoustics Coding）と呼ばれるアルゴリズムを使用し、圧縮率は通常4：1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD－ROMに記録された音声が再生されます。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1kHzは1秒間に44100回、96kHzは1秒間に96000回アナログ信号を読み取ってデジタルに変換します。

5.1chサラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドといいます。

ダイナミックレンジ
信号が正しく変換する最大のレベルと雑音等、機器の性質で制限させる最小レベルの差を言います。

LFE
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

困ったときは

困ったときは、次の内容をご確認ください。

BASE-V10Xは、サブウーファーSWA-V10X、サテライトスピーカーST-V10XおよびAVコントローラーPR-155Xの組み合わせで最良の状態になるように設計されております。本体と他のスピーカーとの組み合わせや、他のアンプとサテライトスピーカーとの組み合わせでご使用になった場合の故障については、保証できない場合がありますのでご了承ください。

電　源

	参照ページ
電源が入らない	
• 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。	
• SWA-V10X専用接続コードが正しく接続されているか確認してください。 PR-155X背面のSUBWOOFER CONTROLが接続されているか確認してください。	P22
• 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。	
電源が途中で切れる	
• 表示部にTIMER表示がある場合は、タイマーが働きます。解除してください。	P58
• タイマー演奏、録音は終了時刻にスタンバイになります。	

音　声

	参照ページ
音声が出ない	
• サブウーファーの電源プラグがコンセントから抜けていませんか？	
• スピーカーは正しく接続されていますか？しん線は本体の接続端子に接触していますか？	P23
• ボリューム位置を確認してください。基本的にMIN·1·2· · ·95·96·MAXまで調整できます。本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるよう、幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。	
• 入力表示が正しく選択できているか確認してください。 接続した機器を入力表示切り換えで選択する必要があります。	P35
• 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。 DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。	
• “MUTING”と表示されている場合、ミューティング機能が働いていますので、解除してください。	P37
• ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。	P37
• 光デジタルケーブルが折れ曲がったり損傷していませんか？	
レコードプレーヤーの音が小さい	
• レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵か、お確かめください。 内蔵していないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。	
レコードプレーヤーが再生できない	
• MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。	
DTS信号について	
• DTS対応のCDやLDをANALOG端子のみに接続してアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS対応のCDやLDを再生するときは再生機器の出力端子を本機のDIGITAL INPUT端子に接続し、DIGITAL（デジタル）で再生してください。	
• 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデータに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデータとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。	
• DTS対応ディスクを再生している時にプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生することがありますが、これは故障ではありません。	

〈音質について〉
電源プラグの極性を変えると音が良くなることがあります。
電源投入後10～30分程度経過した方が音質は安定します。
SWA-V10X専用接続コードはスピーカーコードと一緒に束ねると音質が劣下します。

困ったときは

ホームシアター

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない/サブウーファーから音が出ない

- サラウンドモードの種類によって音を出さないモードがあります。
  STEREO：フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。
  HALL　：センタースピーカーからは音がでません。
- ドルビープロロジックIIのサラウンドモードで再生するソースにより音が出にくい場合があります。
  5.1ch対応のDVDソフトやBSデジタルの5.1ch放送は臨場感を表現する信号が含まれていることが多いですが、CDや一般の放送には含まれていないのが一般的です。他のサラウンドモードをお選びください。
- スピーカーコードのしん線は本体の接続端子に触れていますか？ P23
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合はサブウーファーから音が出ません。
- サブウーファーレベルを設定してください。 P43

音が良くない

- スピーカーコードの+/−が正しく接続されているかご確認ください。 P23
- 各スピーカーの距離設定、音量設定を行ってください。 P64
- ピンコードのプラグは奥まで差し込んでください。
- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときは、サラウンドモードをPL II MOVIEまたはPL II MUSICにすると、センタースピーカーに音が集中します。違和感を感じるときは、他のサラウンドモードを選んでください。

サラウンドが効かない

- マルチチャンネル音声再生時はサラウンドを切り換えることはできません。

レイトナイト機能が働かない/「CAN NOT」と表示される

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。 P42

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のＤＶＤプレーヤーを使用しているか確認してください。 P36
- 本機の設定を「DVD M, In」にしてください。また、リモコンのMODEボタンで「Multi」を選んでください。 P36
- 「DVD M, In」、「Multi」は入力をDVDにしたときしか選ぶことはできません。

ラ　ジ　オ

放送に雑音が入る/FMステレオ放送の時、サーというノイズが多い
オートプリセットで放送局が呼び出せない（FMのみ）/FM放送で“ST”表示が完全に点灯しない

- アンテナの位置を変えてみてください。
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- FMモードをモノラルに変更してみてください。 P45
- AM受信時リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。
- それでも電波が悪い場合は室外アンテナをおすすめします。 P33

リ　モ　コ　ン

リモコンが働かない/リモコンでテレビが動かない

- 電池の極性（+、−）が、表示通り正しく入っているか確認してください。 P14
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。
  （種類の異なる電池の使用や、新しい電池と古い電池の混用はさけてください） P14
- リモコンと本体の間が離れすぎていませんか？リモコンと本体の間に障害物がありませんか？ P14
- 本体受光部に強い光（インバータ蛍光灯や直射日光）が当たっていませんか？ P14
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、正常に機能しないことがあります。 P14
- テレビのコードが正しくリモコンに設定されていますか？
  もう一度ご使用になっているテレビのリモコンコードを確かめ、登録しなおしてください。 P66

他機器との接続

録音ができない

- デジタル録音するには再生機器のデジタル出力を録音機器のデジタル入力に接続する必要があります。
- システム接続が正しいか確認してください。
- 録音機器側でデジタルやアナログなどの録音入力切換が正しくできているか確認してください。
- DV-S155Xと接続している場合、CD DUBBINGやアナログシンクロ録音などのRI連動が働かないときは、DV-S155Xの後面にあるSYSTEM MODEスイッチが「1」になっていることを確認してください。

システム機能が効かない

- RIケーブルとオーディオ用ピンコードの両方が正しく接続されているか確認してください。
（RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。） P30
- 入力表示の切り換えを行ってください。 P35
- DV-S155Xと接続している場合、CD DUBBINGやアナログシンクロ録音などのRI連動が働かないときは、DV-S155Xの後面にあるSYSTEM MODEスイッチが「1」になっていることを確認してください。

タイマー演奏・録音しない

- 現在時刻/日付は正しく設定されていますか？
時刻が設定されていないと、タイマー演奏・録音はできません。現在時刻/日付を設定してください。 P49
- 電源ON時、表示部に「TIMER」と表示されていますか？ P58
- RIケーブルとオーディオ用ピンコードの両方が正しく接続されているか確認してください。
- 再生機器/録音機器の設定を確認してください。

そ　の　他

テレビの映像がにじむ

- テレビからスピーカーを離してください。

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

音量調整が96以下で終る/97以上になる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

- PR-155Xはマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音やノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。
そのような時は、電源プラグを抜いて約5秒以上待ってから改めて電源プラグを入れてください。

- マイコンのリセットについて
登録したレベル設定などを全て工場出荷時の設定に戻したいときは、PR-155Xの電源を入れて本体のINPUTボタンを押しながらSTANDBY/ONボタンを押してください。
PR-155Xの表示部に「CLEAR」と表示され、初期化されると同時にスタンバイ状態となります。

- 製品の故障により正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

主な仕様

■ PR-155X

電源・電圧：AC100 V・50/60Hz
消費電力：12W
待機時電力：0.9W
最大外径寸法：155（幅）×94（高さ）×287（奥行き）mm
質量：2.0 kg

●音声入力
デジタル端子：3（光 3）
アナログ端子：2（MD、CDR/TAPE/TV/VIDEO）
5.1chアナログ端子：1（フロントL/R、サラウンドL/R、センター/サブウーファー）
*（5.1chアナログ入力端子のフロントL/RはDVD/CDのL/Rと共通）

●音声出力
アナログ端子：2（MD、CDR/TAPE/TV/VIDEO）
5.1chアナログ端子：1（フロントL/R、サラウンドL/R、センター/サブウーファー）
ヘッドホン出力端子：1

■アンプ部

入力感度/インピーダンス：150mV/50kΩ（LINE入力）
出力電圧/インピーダンス：1V/600Ω（STEREO、VOLUME MAX時）
周波数特性：120Hz～20kHz（＋1dB/－3dB L/R/C/SL/SR）、20～120Hz（0dB/－3dB SW）

■ FM/AMチューナー部

受信範囲：FM76.00～108.00MHz、AM 522～1629kHz
周波数特性：30Hz～15kHz/（±1.5dB）

■SWA-V10X (6chアンプ内蔵サブウーファー)

電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：46W
最大外径寸法：190(幅)×313(高さ)×353(奥行き)mm
質量：8.7kg
その他：防磁設計（JEITA）
音声入力：5.1chアナログ端子1（フロントL/R、センター、サラウンドL/R、サブウーファー）
入力感度/
　　インピーダンス：500mV/47kΩ（L/R/C/SL/SR/SW）
形式：スリットダクトタイプ　16cm OMFコーン×1
実用最大出力： 15W×5ch（フロントL/R＆センター＆サラウンドL/R、1kHz・6Ω/JEITA)、
25W（サブウーファー、100Hz・3Ω/JEITA）
全高調波歪率：0.1%（5W出力時）
SN比： 100dB（STEREO　IHF-A）

■ ST-V10X（サテライトスピーカー）

形式：8cm OMFコーン（1個につき1本使用）
最大外径寸法：85(幅)×120(高さ)×112(奥行き)mm
質量：各0.7kg
その他：防磁設計（JEITA）

■リモコンRC-568S

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3形（R6）乾電池　2個

※　仕様および外観は性能向上のため予告なく変更することがあります。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　BASE-V10X
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
G0408-2

SN 29343589A